



おもしろい
大学

富山大学
University of Toyama

2025
統合報告書

学長メッセージ / Message from the President

富山大学は、平成17年10月に旧富山大学、富山医科薬科大学、高岡短期大学を再編・統合し、今年で20周年の節目を迎えました。これもひとえに、関係各位の皆様、地域の皆様の格別のご支援とご協力によるものと深く感謝申し上げます。

このたび、本学の活動をご支援くださるステークホルダーの皆様に、本学のビジョン、教育・研究・社会貢献などの活動状況、財務情報をより深く、より分かりやすくお伝えするために、「統合報告書2025」を発行いたします。皆様に、富山大学をより身近に感じていただき、その活動をご理解いただくための資料となれば幸いです。

現代は、気候変動等の環境問題や、食料・水・資源・エネルギー等の不足、緊張化する国際情勢などの様々な課題に直面していますが、日本において最も重要な課題の一つが急速な少子化です。日本の高等教育を取り巻く状況の変化を踏まえ、今後大学は、未来を担う人材の育成や社会の新たな価値の創出に貢献し、「知の総和」を向上させることが必須となってきます。

本学の教育では、「データサイエンス」「アクティブ・ラーニング」「英語教育」の3つを重視し、研究では「カーボンニュートラル」「ヘルスケア・創薬」「軽金属」「データサイエンス」「文化財保存」の地域産業に貢献する5つの分野を重点的に、様々な取組を実施し、教育・研究の質を高めています。

こうした本学の強み・特色を今後さらに強化するため、大学院の強化、グローバル化、社会人教育により一層取り組んでいくとともに、今まで以上に大学等間の連携を推進してまいります。

これからも、地域や世界で活躍する人材を育成し、地域の発展に寄与するとともに、世界に貢献する新たな価値を創造し続けることで、更なる発展を遂げたいと考えております。引き続き、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

富山大学長 齋藤 滋



Contents

- 01 学長メッセージ
- 03 沿革
- 05 数字で見る富山大学
- 07 ガバナンス体制
- 09 Vision

[取組紹介]

- 11 教育
- 15 研究
- 19 社会貢献
- 23 国際交流
- 25 大学運営
- 27 附属病院
- 29 様々な活動

[令和6年度財務情報]

- 31 財務情報
- 37 富山大学基金

※この統合報告書2025は、令和6事業年度財務諸表等を基に作成しています。
金額は、切り捨てで作成しているため、合計が一致しない場合があります。

1923/大正12年
コラム 馬場はるとヘルン文庫

旧制富山高校は、富山の素封家馬場はる(1886-1971)の寄附によって、大正12(1923)年創設された。また、はるは初代富山高校長南日恒太郎の懇請を入れて、小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)の蔵書を購入する資金も提供した。この蔵書のために独立した書庫(ヘルン文庫)が建てられた。



旧制富山高校ヘルン文庫

1957/昭和32年
コラム 黒田善太郎と黒田講堂

富山出身の実業家(現・ココヨ創業者)黒田善太郎(1879-1966)の寄附によって、昭和32(1957)年に建てられた黒田講堂は、入学・卒業式等の大学行事や学生のサークル活動の場として大いに活用された。老朽化に伴い、平成元(1989)年、氏の遺志を受け継いだ黒田暲之助、黒田靖之助の両氏、ココヨ株式会社の寄附によって、現在の黒田講堂に建て替えられた。



旧黒田講堂

1873/明治6年
 新川県講習所

1893/明治26年
 共立富山薬学校

1923/大正12年
 富山高等学校(県立)

1924/大正13年
 高岡高等商業学校

1983/昭和58年
 高岡短期大学

令和7年
**富山大学は
 統合20周年を迎えました**



2025

2018

2005

1983

1975

1967

1949

1923

1875

1893

1953/昭和28年
 経済学部

1977/昭和52年
 人文学部、理学部

2005/平成17年
 人間発達科学部



文理学部

教育学部

工学部

薬学部

1949/昭和24年
 旧富山大学設置

1944/昭和19年
 高岡工業専門学校
 (工学部の前身)

1944/昭和19年
 高岡経済専門学校
 (経済学部の前身)

1944/昭和19年
 高岡高等商業学校



1897/明治30年
 富山市立薬学校

1943/昭和18年
 富山師範学校
 (教育学部の前身)



1898/明治31年
 富山県師範学校設置



1883/明治16年
 富山県富山師範学校

1875/明治8年
 新川県師範学校

2005/平成17年
 新富山大学

- 人文学部
- 人間発達科学部
- 経済学部
- 理学部
- 医学部
- 薬学部
- 工学部
- 芸術文化学部
- 都市デザイン学部
 (2018/平成30年)

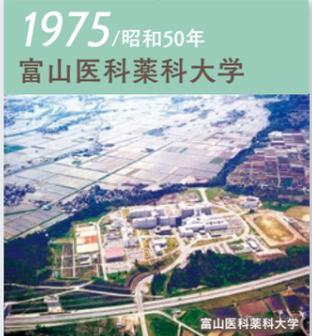
2018/平成30年
 教養教育一元化
 都市デザイン学部設置

2019/令和元年
 教員組織と教育組織を分離し、
 学術研究部を設置

2020/令和2年
 先進アルミニウム国際研究センター、未病研究センター、データサイエンス推進センター等の設置

2022/令和4年
 人間発達科学部を改組し、教育学部設置
 大学院修士課程を改組

2024/令和6年
 経済学部および理学部を改組
 大学院博士課程を改組



1967/昭和42年
 教養部設置

1993/平成5年
 教養部廃止

学部・研究科等数

9学部 4研究科 2学環

- 人文学部 人文社会芸術総合研究科
- 教育学部 総合医薬学研究科
- 経済学部 理工学研究科
- 理学部 持続可能社会創成学環
- 医学部 医薬理工学環
- 薬学部 教職実践開発研究科
- 工学部
- 芸術文化学部
- 都市デザイン学部

学生数

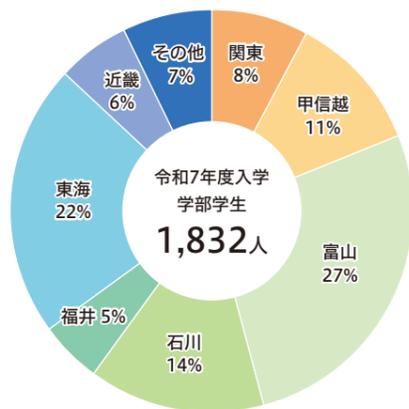
9,341人 ※令和7年5月1日現在
 学部生 7,947人 / 大学院生 1,394人
男女比 約6:4

入学志願者数

※令和7年度入試
 ※編入学、大学院を除く

志願者数:7,417人
入学者数:1,832人

学部学生地域別入学状況



卒業・修了者数

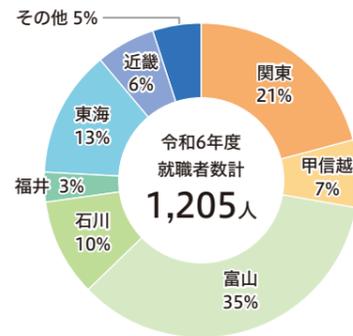
2,266人 ※令和6年度卒業・修了者

〈内訳〉
 学部:1,730人 /
 大学院(修士):458人 / 大学院(博士):62人 /
 大学院(専門職学位):16人

卒業・修了者の進路状況 click

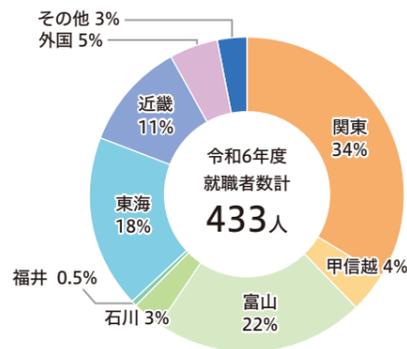
学部学生の就職率・地域別就職状況

就職率 99.2% ※令和6年度卒業者
 ※就職希望者に対する、就職者の割合



大学院生の就職率・地域別就職状況

就職率 98.2% ※令和6年度修了者
 ※就職希望者に対する、就職者の割合



常勤教員あたりの学生数

10.7人の学生に1人の教員

教員数 872人 ※令和7年5月1日現在
 ※附属学校教諭を除く

大学に関する詳細な情報は、大学ウェブサイト「大学紹介」からご確認ください。



アクティブラーニング導入率

80% ※令和6年度

蔵書数

※令和7年3月31日現在
1,297,029冊

電子ジャーナル数

※令和6年度
14,971種

公開講座

※令和6年度実績
65講座
受講者数522人

生涯学習情報 click

外国人留学生数

※令和7年5月1日現在
34か国・地域 362人

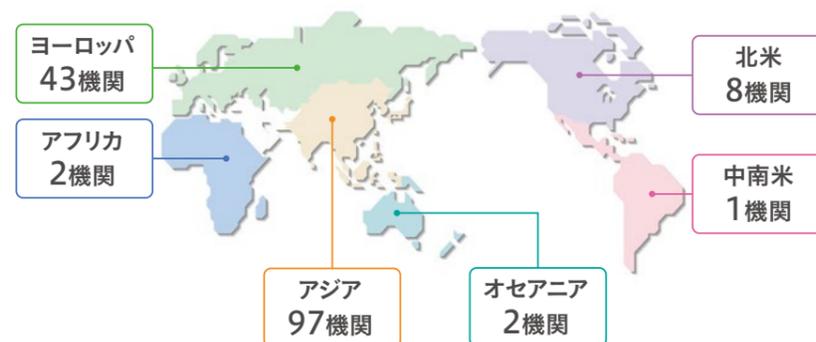
〈留学生数上位5か国〉
 中国:193人 / ベトナム:27人 /
 マレーシア:23人 /
 インドネシア:21人 /
 パキスタン:16人

国際交流協定数

※令和7年5月1日現在
34か国・地域 153機関

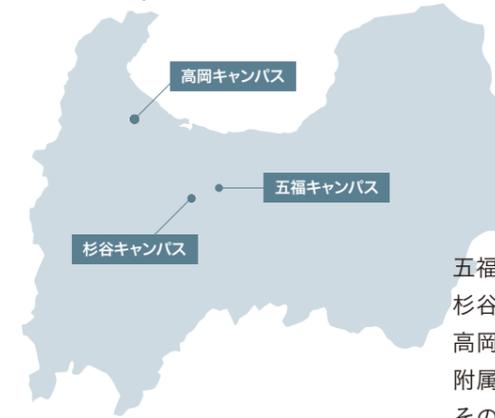
大学間交流協定:21か国・地域51機関 / 部局間交流協定:27か国・地域98機関
 国際協力拠点:3か国・3機関 / 富山大学リエゾンオフィス:3か国・5機関

最新の締結状況は「国際交流」23-24ページをご覧ください。



土地面積

843,860㎡



五福キャンパス:232,175㎡
 杉谷キャンパス:381,600㎡
 高岡キャンパス:99,847㎡
 附属学校:39,333㎡
 その他(宿舍等):90,905㎡

共同研究件数

244件

受託研究件数

221件

科研費採択件数

435件

※令和6年度

特許保有件数

299件 ※令和7年3月31日現在
 国内206件 / 外国93件

女性教員比率

20.4% ※令和7年5月1日現在

若手教員比率

24.7% ※令和7年7月1日現在

附属病院 病床数

612床

外来患者延数 (年間)

294,027人

入院患者延数 (年間)

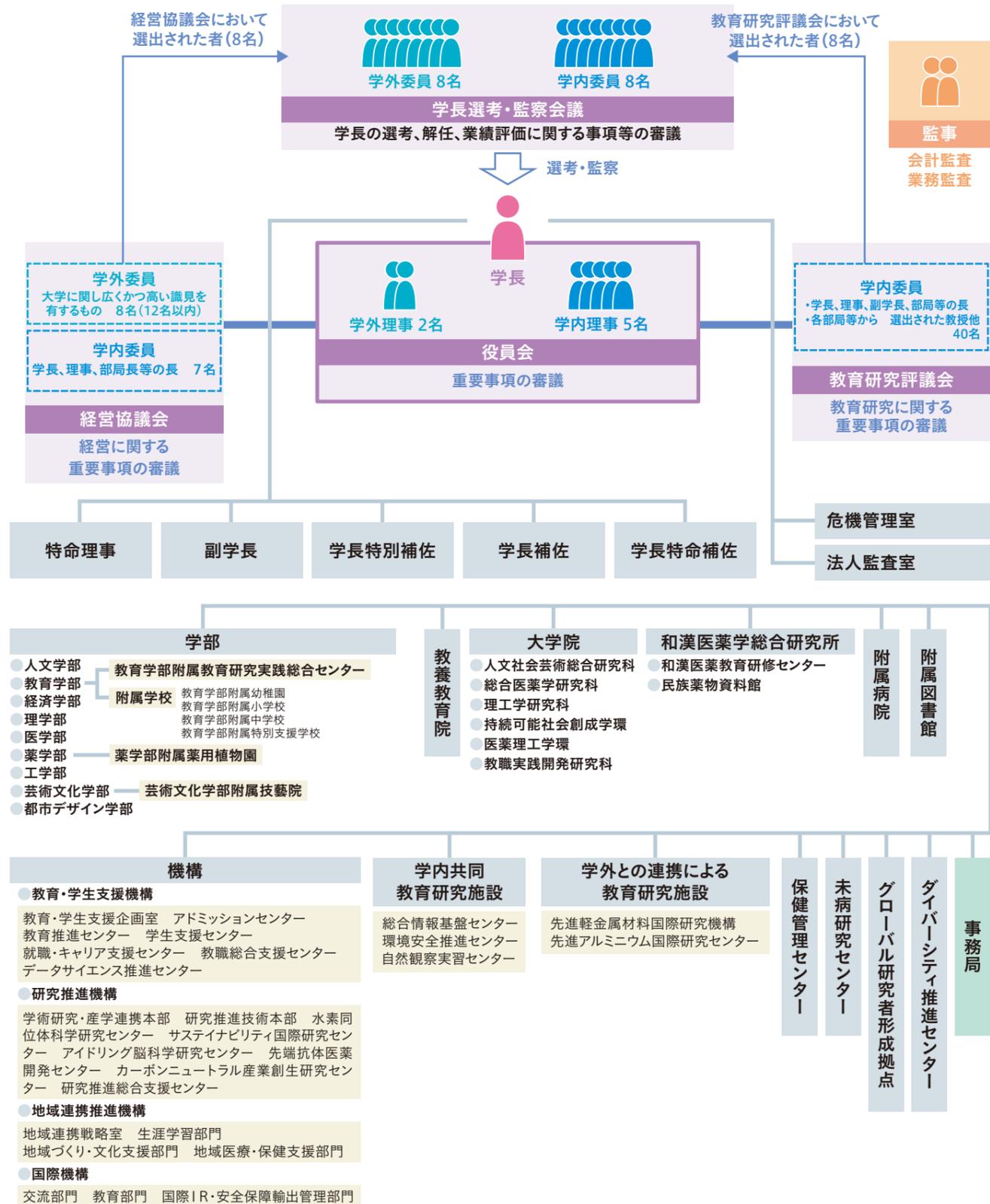
179,989人

※令和6年度

富山大学のガバナンス体制

経営及び教学運営に係る重要事項の審議機関として、国立大学法人法や本学学則に基づき、役員会、経営協議会及び教育研究評議会を設置し、自主的・自律的・戦略的な法人経営を行う体制を構築しています。

運営組織図



役員

役員				監事
学長 齋藤 滋	理事・副学長 (大学改革担当) 北島 勲	理事・副学長 (研究担当) 酒井 秀紀	理事・副学長 (教育担当) 鳥海 清司	監事(常勤) 長津 輝彦
理事・副学長 (地域貢献担当) 會澤 宣一	理事・事務局長 (総務・財務担当) 鈴木 規子	理事(非常勤) (大学運営担当) 高木 繁雄	理事(非常勤) (附属病院(臨床研究)担当) 水野 正明	監事(非常勤) 宮林 紀子

副学長

- 山本 善裕 病院運営・経営(附属病院長)
- 関根 道和 IR、入試改革等
- 林 篤志 附属図書館、大学経営
- 張 勁 国際、外国人研究者支援等

経営協議会学外委員

- 石塚 勝 富山県立大学名誉教授
- 稲垣 晴彦 北陸コカ・コーラボトリング株式会社代表取締役会長
- 稲田 裕彦 救急薬品工業株式会社代表取締役社長
- 大西 珠枝 玉川大学芸術学部元教授
- 蔵堀 祐一 富山県副知事
- 伍嶋二美男 あいの風とやま鉄道株式会社代表取締役社長
- 林 勇二郎 金沢大学名誉教授
- 森 雅志 前富山市長

国立大学法人ガバナンス・コードに係る適合状況について、毎年公表を行っています。

国立大学法人ガバナンス・コードは、国立大学法人が更に経営の透明性を高め、教育・研究・社会貢献機能を一層強化し、社会の変化に応じた役割を果たし続けていくために、自らの経営を律しつつ、その機能を更なる高みへと進めるための、基本原則となる規範として、国立大学協会、文部科学省、内閣府の三者による合意の下、策定・公表されたものです。

本学は、これまででも法令に従い活動を行ってまいりました。今後は更に、本ガバナンス・コードを基本原則としてそれぞれの特性等を踏まえた取組を実施し、教育・研究・社会貢献機能を最大限発揮するための経営機能を高め、自ら強靱なガバナンス体制を構築していきます。また、一層経営の透明性を向上させ社会への説明責任を果たし、社会の皆様からの信頼と理解を得続けられるよう努めてまいります。

本ガバナンス・コードに対する適合状況等については毎年点検を行い、本学経営協議会及び監事の意見を受けたうえで、本学のウェブサイトにおいて公表しています。

国立大学法人ガバナンス・コードへの対応状況について



click



富山大学ビジョン
“Saito Vision 2025”

”みんなで創ろう！”
 おもしろい大学

「Saito Vision」とは、齋藤 滋 学長が目指す大学像、大学運営の方針です。教職員・学生・その他大学に関係する全ての方と共に課題に真摯に取り組み、良い大学を作り上げることを目指しています。

3つのVision

1. 未来への扉を開く授業、社会に革新を与える研究をみんなで創りあげる
2. 超スマート社会「Society 5.0」に対応した人材を育成し、グローバル化する社会の持続的発展に寄与する
3. 「地(知)を楽しみ、知(地)を活かす」拠点として地域産業の発展と、ウェルビーイングの向上に貢献する

教育

- ◆ 高度デジタルエキスパート人材の育成
- ◆ 学生のやる気・ワクワク感を後押しする教育・学生支援の推進
- ◆ グローバル人材の育成
- ◆ 大学院教育の充実

研究

- ◆ 社会の課題解決・イノベーションに寄与する研究の推進
- ◆ 社会実装を目指した研究の推進
- ◆ 世界トップレベルの研究拠点を形成

Action Plan

-ビジョンを具体化する戦略-

社会貢献

- ◆ 産学官金連携による地域活性化を推進
- ◆ 地域への情報発信と定期的な対話
- ◆ リカレント教育等の質向上
- ◆ 地域住民の健康を守るための医療連携と高度医療の強化

大学運営

- ◆ 学長ガバナンスの強靱化に向けた体制整備
- ◆ エビデンスベースの法人経営
- ◆ 財源の多元化・安定的な財務基盤の確立



「Saito Vision 2025」

click

データサイエンス(DS)教育の展開

現代社会に必要なデータやデジタル技術を使いこなす力を養成するため、「富山大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム(令和2年度開始)」を中核として、初年次の教養教育から学部専門教育に至るまで体系的なデータサイエンス教育を行っています。

令和5年度には、本プログラムが先導的で独自の工夫・特色を有していることが評価され、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベルプラス)」に選定されました。

また、工学部と都市デザイン学部のカリキュラムについては、専門分野への応用基礎力を習得できる水準であることから、同制度により「認定プログラム(応用基礎レベル)」に認定されています。

経済学部と理学部においては、令和6年度に学部改組を行い、それぞれ1学科制に移行するとともに、数理・データサイエンスに関するコース/プログラムを開設、令和7年度には同制度により「認定プログラム(応用基礎レベル)」に認定されるなど全学を挙げてデータサイエンス教育に取り組んでいます。

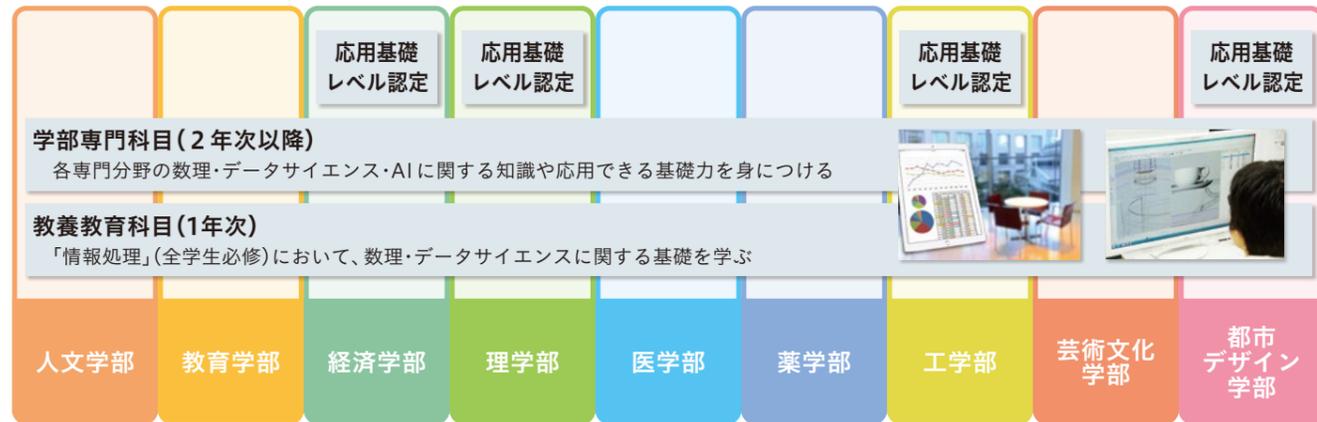


教育・学生支援機構データサイエンス推進センター



click

富山大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム



トピック

「富山大学DS・DX推進フォーラム」を開催

令和6年11月29日、本学五福キャンパス黒田講堂において、地域の課題解決・発展とSociety5.0社会に向けDSやDXの活用の方向性について、地域の企業、自治体、社会人、学校教育、大学の方々の情報共有を行う場として「富山大学DS・DX推進フォーラム」を開催しました。

同フォーラムでは、経済産業省中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局や富山県教育委員会から講師を招き、第1部「産学官金との連携について」、第2部「社会人教育支援について」、第3部「学校教育支援について」の講演と質疑応答がありました。

参加者からは活発な質問と、受講者アンケートでは「多様な実践を一度に見ることができた」、「貴学の活動を知ることができた」、「小学校でのプログラミングやメタバースの取組がとても参考になった。これからは最新技術を小学生にも体験できるような取組を行ってほしい。」との感想をいただき、大変有意義なフォーラムとなりました。

なお、対面・オンラインのハイブリット開催としたところ、対面59名、オンライン62名、計121名の参加がありました。



時間	内容	講師
13:00-13:30	開会式	黒田 隆夫
13:40-14:00	日本経済新聞社副社長 藤田 隆之 氏による講演	藤田 隆之
14:00-14:20	経済産業省中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局長 佐藤 隆之 氏による講演	佐藤 隆之
14:20-14:30	CFRのCEO 藤田 隆之 氏による講演	藤田 隆之
14:30-14:40	閉会式	黒田 隆夫

富山大学DS・DX推進フォーラム

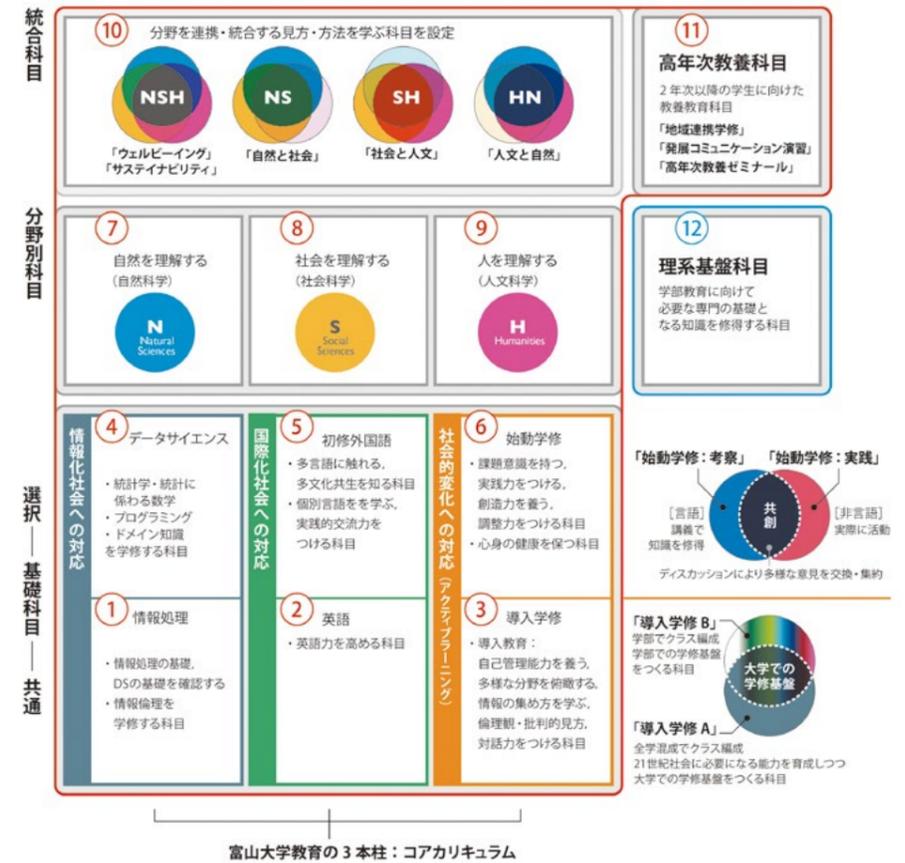


click

トピック

令和8年度からの教養教育改革

複雑で急激な変化をする現代社会への「対応力」を育むため、教養教育を改革し、令和8年度より新たなカリキュラムで教養教育を行います。今日の社会で必要不可欠な能力や大学での学修の基礎を修得するため、9つの系による科目構成から、12の科目群による科目構成へ再編・統合します。



コラム 教育の3本柱

富山大学ではデータサイエンス教育に加え、アクティブ・ラーニング、英語教育を「教育の3本柱」として大学を挙げて推進しています。

①データサイエンス教育

-社会に必要なデータやデジタル技術を使いこなす力の養成-

②アクティブ・ラーニング

-自ら考え自ら学び、課題解決に繋げる姿勢の確立-

一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的参加を取り入れた「アクティブ・ラーニング」への転換を全学的に進めています。グループワーク、ディスカッション、反転授業、PBL型授業等の手法を取り入れた「アクティブ・ラーニング」の導入率は、80%まで上昇しています(2024年度)。

③英語教育

-グローバルな世界で通用するスキルの獲得-

習熟度別クラス分け、テーマ別クラス分け、eラーニング、TOEIC-IPテスト及び海外英語研修等による体系的な英語教育を展開しています。TOEIC-IPテストは、1年次に2回(4月と12月以降)、3年次に1回、大学の費用負担による受験機会を設けています。2024年度入学者では4月に比べて12月の平均点が46点上昇しました。



グループワーク(全学横断PBL)



富山大学の英語教育



click

大学院改組による分野間連携・融合教育の実現

令和4年4月に修士課程、令和6年4月に博士課程・博士後期課程を全面改組しました。

これにより、専門職大学院である教職実践開発研究科を含めた4研究科2学環で、本学の強みを生かしつつ、分野間の連携・融合を図り、新たな価値を創出する体制を構築しています。

詳細はこちら

令和4年4月修士課程改組

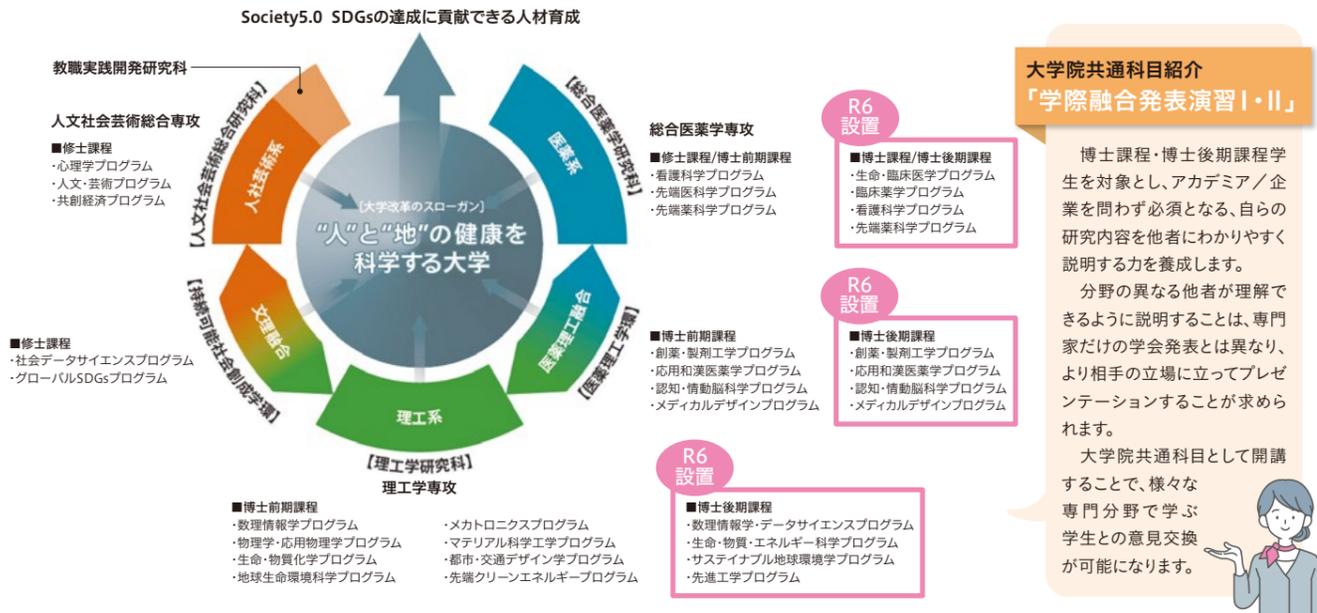


令和6年4月博士課程改組



「総合知」を身につけることのできる分野間連携・融合教育の実現

- ・高度な教養又は基盤的能力を身につけるための大学院共通科目を提供
- ・専門分野の異なる複数の指導教員による指導・助言体制の構築
- ・学問分野を超えた融合教育を実現し、学際的領域横断型教育を展開



トピック

博士号短期取得プラン開始

一定の研究業績を有する社会人を対象とし、博士後期課程(標準修業年限3年)を最短1年で修了し、課程博士号を取得する制度を令和7年4月入学(令和7年度入試)から開始しました。

本制度は、社会人として積み重ねてきた実績を基に研究指導を受け、博士論文を完成させる制度です。

入学試験時の審査において一定の基準を満たし、かつ博士課程学生として十分な能力を有すると認められれば、最短1年で課程博士号を取得するプランで学ぶことが可能です。

本制度により、社会人の学び直しを支援するとともに、大学院の活性化を目指します。

対象プログラム

総合医薬学研究科	先端薬科学プログラム、臨床薬学プログラム*
理工学研究科	数理情報学・データサイエンスプログラム、生命・物質・エネルギー科学プログラム、サステナブル地球環境学プログラム、先進工学プログラム
医薬理工学環	創薬・製剤工学プログラム、応用和漢医薬学プログラム、認知・情動脳科学プログラム、メディカルデザインプログラム

※標準修業年限4年である博士課程を最短3年で修了する制度

大学院入試



富山大学大学院 最短一年 頑張る社会人を応援します。 博士号短期取得プラン 令和7年度入試(令和7年4月入学)から開始!

博士課程学生支援プロジェクト

-次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)-

本学SPRING事業サイト



国立研究開発法人科学技術振興機構が実施する「次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)」の採択を受け、令和3年度から、大学院博士後期課程の学生に対する経済的支援及びキャリアパスの充実を図っています。

意欲ある優秀な学生が博士後期課程に進み、その能力を最大限に発揮できる環境を提供するとともに、本学の研究力向上により、ヘルスケア・創薬、軽金属、カーボンニュートラルといった本学の強みを活かした地域産業の振興を図り、世界の諸課題の解決に貢献する先導的人材を育成することで、我が国の競争力向上を目指しています。

支援対象

令和7年度支援人数:67名

博士後期課程に入学予定の者を対象に、毎年度20名程度募集しています。

支援期間は、博士後期課程の標準修業年限以内とし、原則、入学から修了までを支援します。

支援内容

・研究奨励費(生活費相当額):年額216万円(月額18万円)

・研究費:年額50万円

・その他、海外留学、インターンシップ、国際学会、英語論文投稿に必要な経費の支援

・キャリア開発・育成コンテンツの提供

事業による取組紹介

(1)研究者として必要な表現力を身につける「伝わるプレゼン・ポスター講習会」の開催

芸術系学部を有する総合大学である特色を活かし、プレゼンテーション力の向上を目的として実施しています。

学生が事前に作成したポスターレイアウトに対し、講師がデザイン表現の基本を踏まえた改善案を提示します。これにより、自身の研究分野の研究者だけでなく、多くの方に分かりやすく説明する能力の向上が期待できます。



伝わるプレゼン・ポスター講習会

(2)「研究不正防止研修会」の開催

外部講師による「研究不正防止研修会」をワークショップ形式で開催しています。

具体的な事例を用いて、研究データの管理方法などを学び、グループで意見を交わすことで、研究者として必須の知識を実践的に身につけます。



研究不正防止研修会

(3)学外での研究成果発表の推進

学内にとどまらず、産官学の様々な分野の方が集う場において、日頃の研究成果を発表する機会を設けています。

より多くの方に、自身の研究成果を発表し、博士課程学生が持つ深い専門性や課題解決能力を社会に発信しています。

その他、英語能力向上プログラムや、留学生を対象とした日本語教育プログラムなどを推進しています。

事業による成果

博士後期課程学生の増加

本事業が始まった令和3年度から、博士後期課程学生数が増加しています。

論文投稿及び国際学会発表数の増加

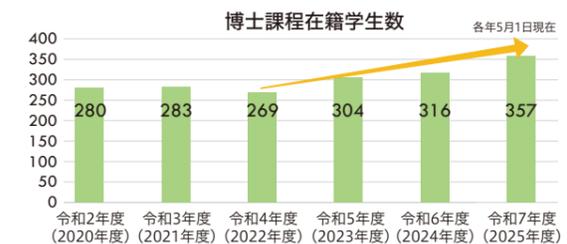
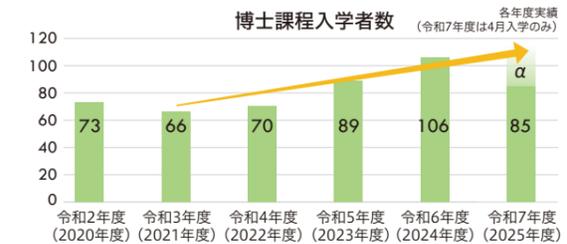
支援対象学生は、年間1報の論文投稿もしくは国際学会発表を実施することとしており、研究力の向上を図っています。

令和6年度

一人あたりの研究発表数 約2.4件

論文投稿数 117件

国際学会発表数 58件



Toyama Academic GALAでの研究発表の様子

重点5分野を中心とした研究力強化

本学の研究の強み・特色であり地域の中核的産業分野でもある重点5分野(カーボンニュートラル、ヘルスケア・創薬、軽金属、データサイエンス、文化財保存)を中心に、研究・技術開発を全学体制で行っています。

重点5分野

- カーボンニュートラル
- ヘルスケア・創薬
- 軽金属
- データサイエンス
- 文化財保存

ヘルスケア・創薬の概要

学長主導の下、ミッション実現「ヘルスケア・創薬事業」として、基礎研究、特許出願から企業導出、製品化までのステージアップによる新薬開発及び医療・健康機器開発の実現を目指しています。これまで臨床研究開発推進センターを中心に、社会実装が期待できる基盤研究を公募・選択し、研究経費の支援並びにセンター、研究推進部及び研究推進機構の教職員による研究補助を行ってきました。

事例1 上腕用カスタムメイドインプラントの開発・製品化

安田剛敏元医学部准教授とヤマウチマテックスHD(株)が共同開発。令和4年製品化



(出典:中小企業庁ウェブサイト) click

令和7年8月1日現在、医学部形成再建外科・美容外科の佐武利彦教授が「乳房再建用の体外式乳房拡張器」を企業と共同開発中で、製品化(上市)を目指しています。

アカデミアと企業が協働し、実用化に結びつけるための橋渡し機能の重要性は益々増えています。さらに本事業を加速させるべく、大学全体で支援体制を強化し、社会実装を目指していきます。

トピック

北里大学との人材育成・教育研究等に関する連携・交流協定の締結

令和7年4月25日に北里大学白金キャンパスにて、国立大学法人富山大学と学校法人北里研究所北里大学との連携・交流に関する協定の調印式を開催し、富山大学齋藤学長と学校法人北里研究所浅利理事長、北里大学砂塚学長により協定を締結しました。

両大学は、ともに和漢薬及び東洋医学に強みを持ち、これまでも漢方診療標準化プロジェクトなどの共同研究や研究セミナーで相互交流を行ってきました。また、両大学は30年以上にわたり、世界保健機関(WHO)伝統医学協力センターの認定(国内で2大学のみ)を受け続けています。

今回の、人材育成と教育研究等の充実を図る「連携・交流協定」を締結を受け、パートナーシップをより強固なものとし、相互の研究開発能力や人材を活用して連携・協力することで、双方が強みとする和漢薬及び東洋医学に関連するヘルスケア領域をさらに拡充し、研究及び人材育成の一層の充実と質の向上を図り、学術及び科学技術の発展と社会に貢献できるよう取り組んでいきます。



北里大学との人材育成・教育研究等に関する連携・交流協定の締結 click

研究紹介

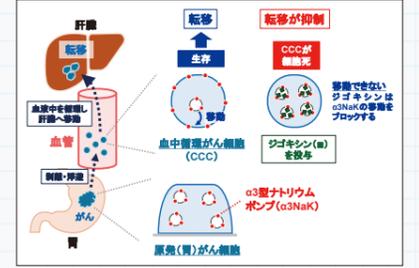
ヘルスケア・創薬

強心剤が「がん転移の根源」となる細胞を封じる新機構を発見

沼田佳久医師(附属病院)、藤井拓人講師(学術研究部薬学・和漢系)、藤井努教授(学術研究部医学系)、酒井秀紀理事らの研究グループは、がん細胞に異常発現する「α3型ナトリウムポンプ」が、元のがん組織(原発巣)では細胞内小胞に局在している一方、原発巣から脱離して血中に移動した「血中循環がん細胞(CCC)」では細胞膜(細胞表面)に移動し、CCCの生存に重要な役割を果たしていることを発見しました。

また、強心剤として心不全治療に利用されている「ジゴキシン」は、このα3型ナトリウムポンプの細胞膜への移動を阻止することで、CCCの細胞死を引き起こし、別の臓器への転移を抑制できることを動物実験で実証しました。本成果は、転移の根源であるCCCを標的とする新たながん治療戦略の開発に貢献することが期待されます。

本研究は、日本学術振興会 科学研究費助成事業(23K24063、23K06330等)、田村科学技術振興財団、The Tamura SY² Research Project、富山県アカデミア創薬支援事業(アンメットメディカルニーズ創薬)の支援のもとで行われたものであり、研究成果は、令和7年5月11日に英国科学誌「Cell Death & Disease」のオンライン版に掲載されました。



強心剤が「がん転移の根源」となる細胞を封じる新機構を発見 click

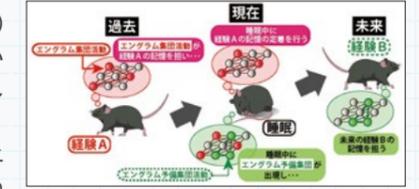
研究紹介

ヘルスケア・創薬

脳が未来の記憶に備える重要なプロセスを発見—睡眠は単なる休息ではない—

井ノ口 馨 卓越教授(学術研究部医学系)とカレド ガンドウル(Khaled Ghandour) 特命助教(同系)らのグループは、過去の記憶の保存と未来の記憶への準備という2つのプロセスが、睡眠中に並行して進行していることを初めて明らかにしました。

本研究グループは、自由行動下のマウスの脳内で「記憶を担う神経細胞集団(エンGRAM細胞集団)」とそれ以外の細胞の活動を光で観測する技術を使い、脳の海馬中にあるエンGRAM細胞集団が、新しい出来事や経験を記憶する前の睡眠中の段階ですでに準備されて活動している様子の観察に成功しました。さらに、未来の記憶のために準備されているエンGRAM予備細胞集団は、前の記憶直後の睡眠中にエンGRAM細胞以外の細胞から出現し、前の記憶を担っているエンGRAM細胞集団と同時に活動することが分かりました。このことから、エンGRAM予備細胞の出現には前の記憶が影響していることが推測されます。続いて、エンGRAM予備細胞集団が出現するメカニズムを調べるために、神経回路モデルによるシミュレーションを行いました。この結果、エンGRAM予備細胞集団が出現するためには、前の記憶のエンGRAM細胞の再活動の影響を受けてエンGRAM細胞以外の細胞で起こる睡眠中のシナプスの変化が重要であることが提唱されました。以上の結果は、睡眠は単なる休息ではなく、睡眠中の脳は「舞台裏で」積極的に働いており、過去の記憶を定着しつつ、未来の記憶に備えるという2つの役割を果たしていることを示しています。



本研究は、情報通信研究機構 脳情報通信融合研究センターの芳賀 達也 研究員、獨協医科大学の大川 宜昭 准教授、香港城市大学のChi Chung Alan Fung(チー チャン アラン ファン) 助理教授、北海道大学の佐藤 正晃 講師(現 京都工芸繊維大学教授)、沖縄科学技術大学院大学の深井 朋樹 教授らと共同で行われたものです。

本成果は、科学技術振興機構(JST) 戦略的創造研究推進事業 CREST(課題番号JPMJCR23N2)によって得られました。

脳が未来の記憶に備える重要なプロセスを発見 click

トピック

日本糖尿病学会よりハーゲドーン賞を受賞

戸邊一之特別研究教授(学術研究部医学系)が、一般社団法人日本糖尿病学会第68回年次学術集会においてハーゲドーン賞を受賞しました。ハーゲドーン賞は日本糖尿病学会が授与する賞の一つで、国際的に認められ評価の確立した研究業績に与えられるものです。対象となった研究は「2型糖尿病におけるインスリン抵抗性の分子機構の解明」です。令和7年5月29日～31日に年次学術集会において、授賞式及び受賞講演が行われました。

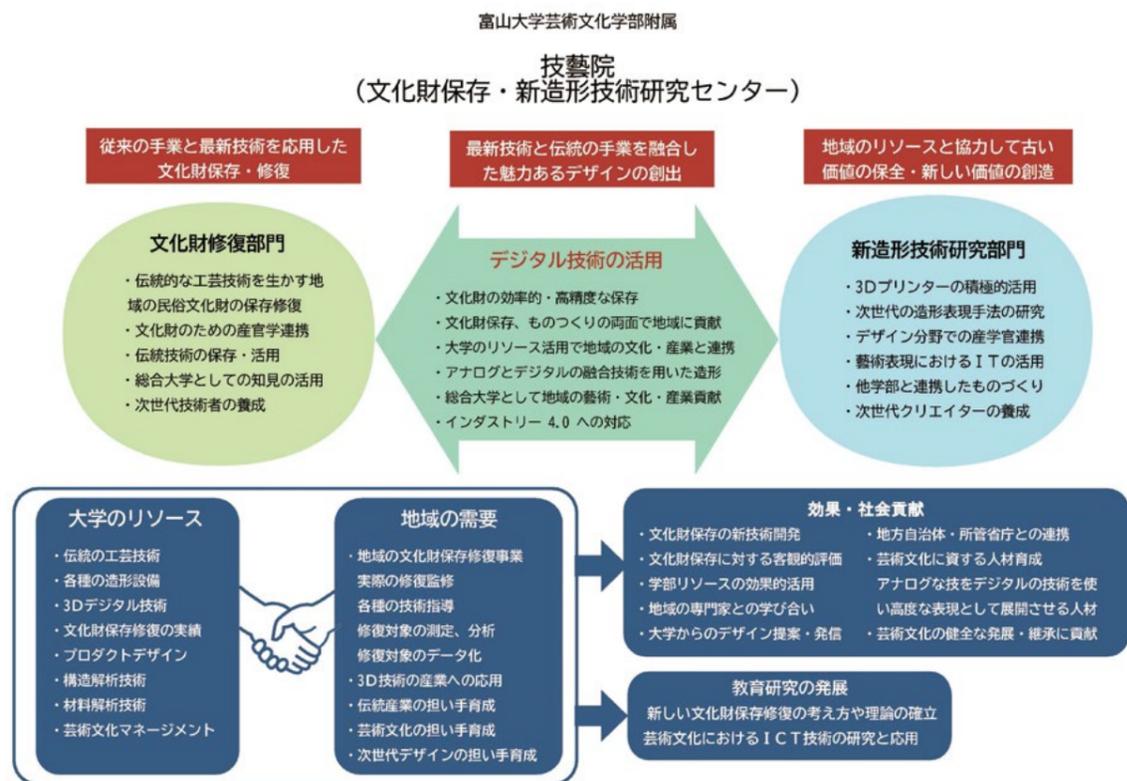


ハーゲドーン賞を受賞 click

文化財保存 文化財保存概要

令和2年4月、「富山大学芸術文化学部附属技藝院(文化財保存・新造形技術研究センター)」を設置しました。技藝院では、これまで培ってきた伝統的工芸の技術を基に、3D CADや3Dスキャン、三次元造形などデジタル技術を積極的に取り入れることで、様々な有形文化財の修復技術を確立することを最重要課題の一つとして活動しています。主な対象である有形民俗文化財は、たとえば祭りなどの伝統行事や風習に使用される道具などです。これらは実際の使用により消耗や破損が生じることがあり、そのため文化資産として適切に管理し、伝承していく必要があります。元々の姿に限りなく近い形で保存修復していくことが、地域の伝統や歴史を正確に伝承していく上で不可欠です。その際、伝統的な技術に敬意を払いながらも、現代の様々な先端技術を取り入れることが有効な場合が多くあると考えています。

また、こうしたデジタル技術による新しい造形技術は、ものづくり分野においても非常に有効な手段として利用されています。新しいアイデアやデザインを身の回りのモノに反映させるには、費用対効果や時間対効果に優れた方法として、これからのものづくりに必須の技術となります。ここで培った手法は、学生のデザイン教育に展開され、本学部にとっても重要な役割を果たすことが期待されます。特に、令和の産業革命ともいうべき生成AIの登場によって、芸術やデザインの現場でも技術革新が進んでおり、これらデジタルによる造形技術を教育に取り入れていくことで、今後末長く世の中で活躍できる人材を継続して輩出することが期待されます。



【近年の取組について】

- 高岡御車山の修復事業
- 南砺市福野夜高祭行燈・曳山の三次元計測
- 富山市八尾おわら風の盆モーションキャプチャを用いた踊りのアーカイブ



トピック

オランダのNPO法人「技の道」との学術交流協定の締結

令和6年9月27日、芸術文化学部附属技藝院(文化財保存・新造形技術研究センター)は、オランダのNPO法人「技の道」と学部間学術交流協定を締結しました。

「技の道」は、オランダ国内における、日本の美術工芸品及び文化財の修復を行うNPO法人であり、この度、技藝院と修復技術に関する学術・技術交流を実施することに合意しました。

両機関は、今後、人的な交流、共同研究、修理実務等の実施及びその発展に協力していく予定です。



トピック

輪島塗漆器洗浄完了

能登半島地震で被災した石川県輪島市の輪島塗の復興支援の一環として、安嶋是晴 准教授(芸術文化学系)が昨夏より行ってきた漆器洗浄作業が完了しました。

延べ594人に上る一般のボランティア、学生の協力もありません。令和7年3月30日、洗浄作業の拠点となった高岡市の御旅屋セリオにて、江戸末期創業の老舗「大崎漆器店」の店主、大崎四郎さんと妻の悦子さんに漆器を返却し、大崎さんや輪島塗の職人から感謝の言葉をいただきました。

今後も継続的に輪島塗の支援を行う予定です。



トピック

技藝院が大阪万博・EUパビリオンで研究セッションに参加

令和7年5月4日、技藝院の内田和美教授、新谷仁美講師、三上拓哉特命助教、そして横山天心准教授の4名が、駐日欧州連合部の招待を受け、大阪万博・欧州連合パビリオンで、イタリア・フィレンツェ大学のピエロ・バリオーニ教授らの研究グループとのセッションに参加しました。

本セッションは、技藝院の取組と、バリオーニ教授を中心とするEU文化財保存プロジェクトGREENARTとの橋渡しを狙ったものです。バリオーニ教授が取り組むコロイド界面化学と文化財保存研究とを接合させる着眼点は、本学における無形文化財保存の取組にも汎用可能であり、さらには技藝院のデジタルミュージアム及びデジタルファブリケーションによる文化財保存活動への接続をも見据えた、今後の共同研究についての議論を深めました。

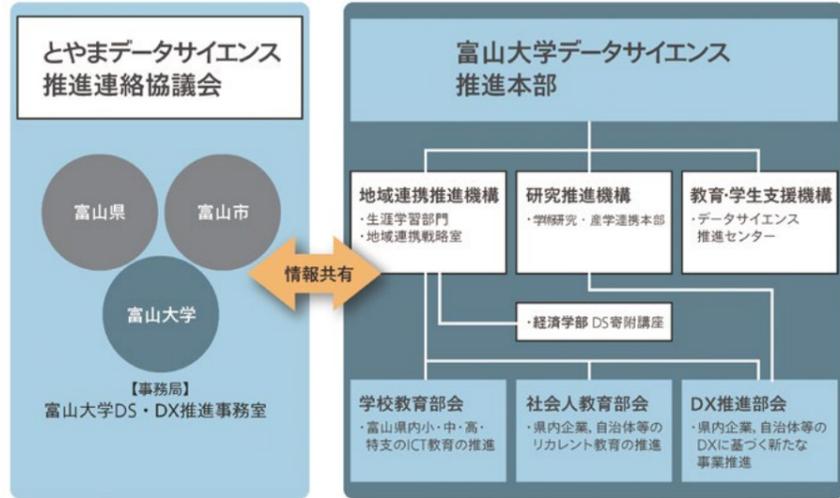


データサイエンス推進事業



令和3年度より、富山県及び富山市と連携し、「とやまデータサイエンス推進連絡協議会」を設置しています。
 (1)学校教育推進、(2)社会人教育推進、(3)産学官金連携事業推進の観点から、地域におけるデータサイエンス(以下「DS」)・DXの普及に取り組んでいます。

富山県内データサイエンス連携組織図

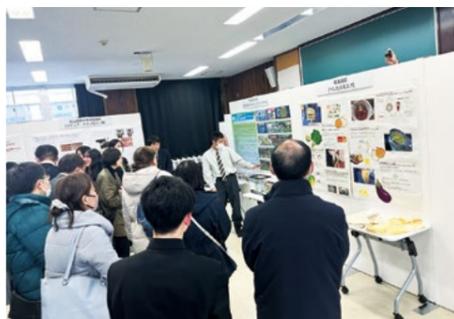


「海外とのオンライン協働学習」の様子

1. 学校教育推進

県内学校(小・中学校、高校、特別支援学校)の教員、児童・生徒、保護者・PTAを対象に、ICT教育やDS教育の支援を行っています。教員がDS教育を理解し実践できるようガイドブックを作成し、様々な場面でICTの活用やデータ収集、分析の機会を提供しています。
 小学校では、海外とのオンライン協働学習を通じて、児童が国や地域の特産や観光地等をパワーポイント等の資料にまとめ、米国やマレーシアの連携校とSDGsをテーマにオンラインで交流しています。高校の探究活動では、生徒自らが興味関心を持つ学校や地域、社会の課題等について、アンケートやデータの収集・分析を行い、その結果をプレゼンテーション資料やポスターにまとめ、年度末に「とやま探究フォーラム」で発表を行いました。

- 1) 教員研修支援
 - ア. オンラインによる情報発信(オンラインセミナー、学校教員等の実践事例動画、大学教員のICT活用等解説動画): **733名受講**
 - イ. 学校への講師派遣(ICT・DS教育の講演、指導、高校の探究学習・課題研究の支援): **1,694名受講**
 とやま探究フォーラムの支援(県内の高校28校、約260名の生徒が59のテーマを発表): **600名参加**
 - ウ. 県・市教育委員会主催の教員研修と連携: **288名受講**
 - エ. ガイドブックの作成(県内の学校教員用ガイドブックの作成・配付)
 「データサイエンスにつながる学び」ガイドブックⅢ、生徒・教師のための「情報×探究」事例集-2025、先生のための探究ガイド-キホンキ-
- 2) 児童生徒支援(大学院生によるモデル校での教育支援: **142回**
 小学校(16校)・中学校(1校)・高校(13校)でのICT・DS教育支援及び海外とのオンライン交流活動支援
- 3) 保護者研修支援(ICT教育、DS教育、健康との関連など): **261名受講**



「とやま探究フォーラム」の様子

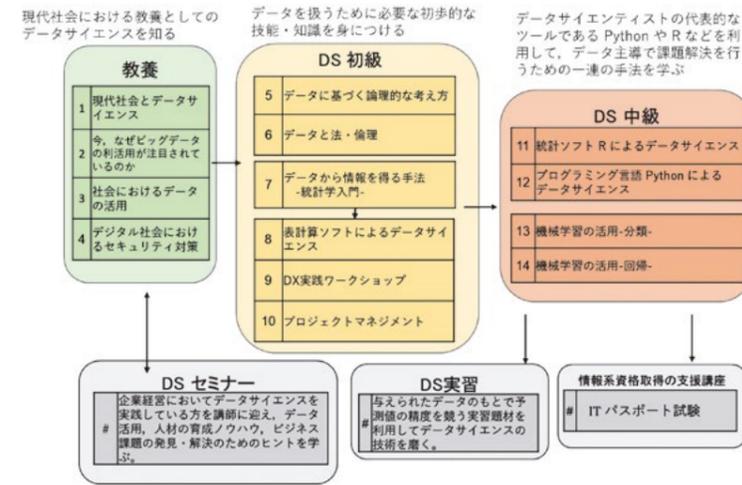


2. 社会人教育推進

県内の社会人等を対象に、レベル別(教養、初級、中級)のオンデマンド教材を作成し、「特別講座」として受講希望者に配信しています。また、国家資格「ITパスポート」取得支援の対策講座や、県内企業のデータ活用事例に焦点を当てたセミナー、統計ソフトを利用したデータ分析実習なども実施しています。

- 令和6年度は、公開講座と連携して導入レベルを3講座、統計ソフトSPSSやRを用いた特別実習を対面で4講座開講しました。
- 1) DS特別講座: **805名受講**
 - ①教養4テーマ、②初級6テーマ、③中級4テーマ、④導入レベルのセミナー3回、⑤ITパスポートの活用に関するセミナー2回、⑥企業や自治体におけるDS・DX活用事例1回、⑦プロジェクトマネジメント1回
 - 2) DS特別実習: **44名受講**
 - ①はじめての統計データ処理-SPSSとRを使ってみよう-、②時系列の関係性分析、③Rによるはじめてのデータ分析、④機械学習によるデータ解析実習
 - 3) 情報系資格(ITパスポート試験)取得の支援講座: **200名受講**(令和7年度は250名に増加予定)

社会人向け講座の概要



「DS特別実習」の様子

3. 産学官金連携事業推進

DX時代に求められる人材育成を目的として、自治体及び企業向けのDX学修セミナーを開講しました。また、令和4年度から令和5年度にかけて、県内の中学校・高等学校に気象計を設置し、収集した気象データを各学校の授業等で活用しています。さらに、大学の教員や大学院生が参画・支援することで、より専門的な学びを提供し、DS教育の理解・推進に繋げています。

- 【気象計: 令和4年度・5年度に富山市内中学校に10台、県内高校に10台設置】
 令和6年度は、本学所有のAIカメラや気象計のデータ、県・市所有のオープンデータ等を活用し、DX実践ワークショップを開講しました。
- 1) DX学修セミナー: **400名受講**
 - ①デザイン思考、②論理的思考、③生成系AI基礎、④DX基礎
 - 2) DX実践ワークショップ: **254名受講**
 - ①データ取得の方法、②AIカメラや気象計を用いたデータ収集とデータ整理(クレンジングなど)、③データ分析方法の学修と実践実習、④データ分析結果の評価と発表 (①~④を2回開催)

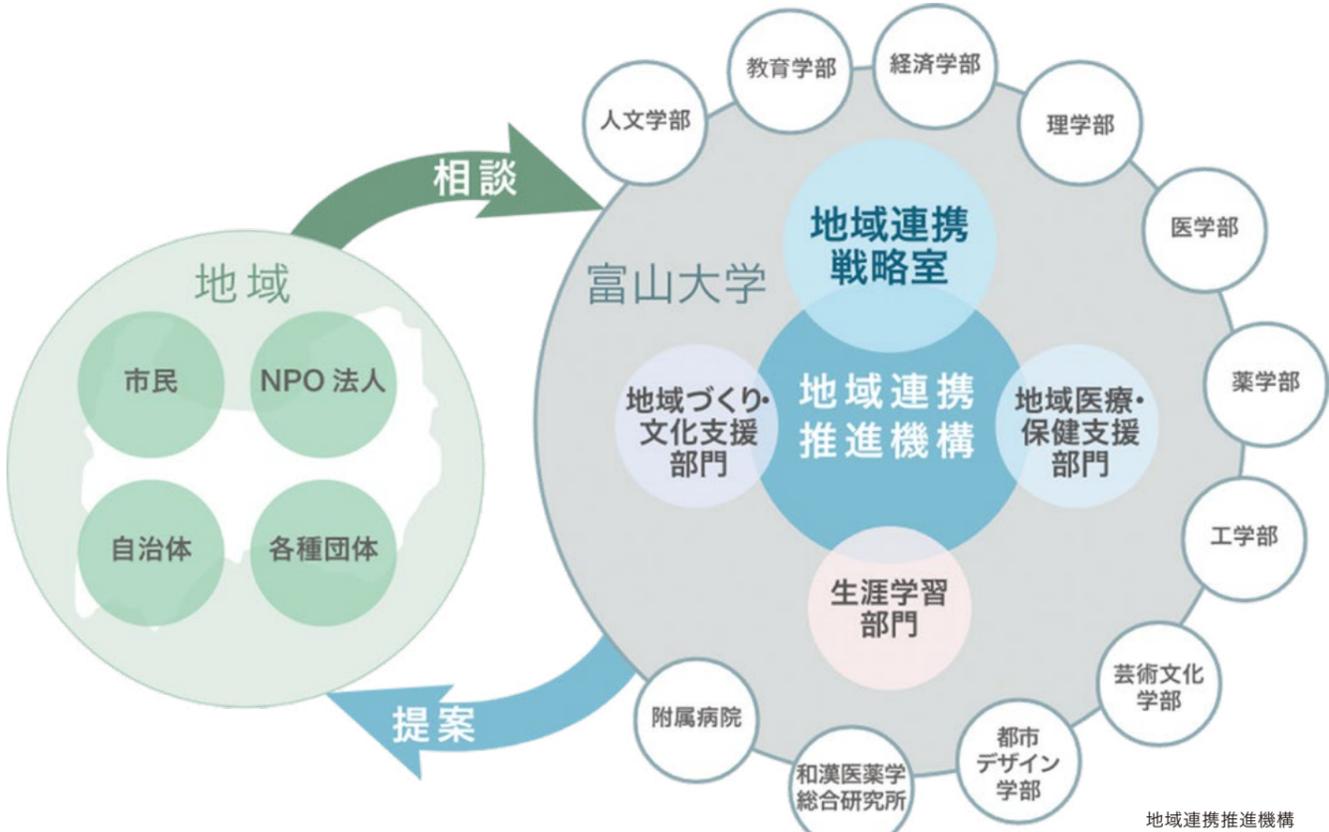


期待される成果

社会人教育推進では、社会人を対象としたDSに関する講座の開講やリカレント教育の推進に取り組んでいます。産学官金連携事業推進では、県内企業・自治体におけるDXに基づく新たな事業の推進・支援を行っています。
 3つの事業を通じ、児童生徒から社会人、学校や市町村を巻き込み、大学をうまく活用してもらうことで、県全体でDSに適応する力を底上げしたいと考えています。
 大学と連携したDS人材育成が新しい事業・産業を生み出し、県民の生活レベルを向上させ、富山県全体の発展につながり、ひいては真のウェルビーイングの実現に向かうと考えています。

本学では、地域社会の自律的発展に貢献するため、社会人教育による市民生活の充実、地域課題解決への先導的役割等を果たすとともに、地域社会に対する窓口としての機能を果たすことを目的とした地域連携推進機構を設置しており、本機構は、地域連携戦略室と生涯学習部門、地域づくり・文化支援部門、地域医療・保健支援部門の3つの部門で構成されています。

社会人教育・地域興し・医療問題など地域との連携に係わる機能を一つの組織にまとめ、多面化・多様化する地域のニーズにスピーディ・フレキシブルに対応します。



トピック

飛騨市との連携協力に関する包括協定の締結

令和7年3月26日に、五福キャンパスにおいて、飛騨市と国立大学法人富山大学との連携協力に関する包括協定の締結式を開催し、飛騨市の都竹 淳也市長、富山大学の齋藤 滋学長が出席しました。

式では、締結の概要について説明があった後、都竹市長、齋藤学長が協定書に署名し、包括連携協定を取り交わしました。

また、締結後には、齋藤学長からは、引き続き飛騨市と密に連携して、成果を挙げながら取組を継続していきたいこと、都竹市長からは、行政だけでは解決できない課題に、大学の知と連携して取り組んでいくことが、住みよいまちづくりやウェルビーイングの向上につながると考えていることなどが述べられました。

今後、両者は、地域の諸課題に対して、相互の強みを活かした人的交流及び知的・物的資源の相互活用を拡大等を通じて、地域の課題解決を図り持続的な発展につなげるとともに、本学の教育研究活動の充実を図っていくこととしています。



飛騨市との連携協力に関する包括協定の締結



トピック

NTT西日本富山支店との「ICTを活用した地域課題解決に関する連携協定」の締結

令和7年6月27日に五福キャンパスにおいて、本学都市デザイン学部と西日本電信電話株式会社富山支店との連携協定に関する締結式を開催しました。

締結式には、本学からは安永都市デザイン学部長及び堀田都市・交通デザイン学科長、西日本電信電話株式会社からは東山富山支店長及び西村ビジネス営業部長が出席しました。

締結式では、安永学部長、東山支店長が協定書に署名し、連携協定を取り交わしました。

今回の協定締結を機に、富山大学にとっては、企業との連携による学生の実践的な学びの深化などが期待され、西日本電信電話株式会社富山支店にとっては、大学の専門知識や学生の柔軟な発想を取り入れることで地域課題への新たな目線やアプローチを得られることが期待されます。

富山市の抱える地域課題の解決に向けて、双方がもつ知見やリソースを活かした「ICTを活用した有効な対策」の検討を共同研究として実施していきます。

NTT西日本富山支店との「ICTを活用した地域課題解決に関する連携協定」の締結



トピック

富山県スポーツコミッション「Sports Link TOYAMA」への参画

本学は令和7年5月16日に、富山県スポーツコミッション(Sports Link TOYAMA)に参画しました。スポーツという地域資源を活用し、教育・研究、人材育成、地域課題の解決などを通じて、地域の活性化と持続的発展に貢献することを目的としています。

スポーツを軸としたまちづくりは、健康増進、世代間交流、防災力の向上など多様な社会的効果が期待されており、地方創生・地域共生社会の実現にも直結する重要な取組です。本学は、スポーツツーリズムや地域イベントの支援、誰もが参加できる包摂的な地域づくり、ウェルビーイング向上などを柱に、独自の地域共創モデルの構築と展開を見据えています。これらの取組は「地域社会の発展に寄与する」という本学の社会貢献理念とも高く合致しており、今後も産学官の連携を深めながら、富山県におけるスポーツまちづくりの中核的な存在として歩みを進めてまいります。

出所:地域スポーツコミッションポータル、スポーツ庁



トピック

小泉八雲蔵書ヘルン文庫100周年

『怪談』などの著作で知られるラフカディオ・ハーン(Lafcadio Hearn,1850~1904:日本に帰化して小泉八雲と称した)は、数多くの著作を通して明治の日本を欧米に紹介しました。

ラフカディオ・ハーンは、生涯に一度も富山を訪れたことはありませんが、ラフカディオ・ハーン旧蔵書は、旧制富山高等学校の設立準備の折、その創設に私財を投じた馬場はる氏に寄付を仰ぎ、購入が実現したことから、1924年に馬場家から旧制富山高等学校に寄贈され、ヘルン文庫となりました。

当時の蔵書は、現在の富山大学に受け継がれ、令和6年はヘルン文庫創設から100周年の節目の年を迎えました。これまでヘルン文庫を支えてくださった皆様への感謝の意を込め、感謝祭をはじめとした様々なイベントを開催しました。



ヘルン文庫 創設100周年特設サイト



小泉八雲蔵書ヘルン文庫100周年感謝祭 アイルランド・日本交流美術展

国際ネットワークの構築・強化



国際ネットワークの構築・強化の一環として、令和4年度にリエゾンプロフェッサー制度、令和5年度にリエゾンオフィス制度を創設しました。

リエゾンプロフェッサーとは、富山大学を卒業・修了し海外の研究機関に所属しており、本学の教育研究活動の国際化推進に協力いただける方に「富山大学リエゾンプロフェッサー」の名称を付与するものです。また、リエゾンオフィスは、リエゾンプロフェッサーが所属する海外の教育研究機関に本学の国際協力拠点として設置するものです。

現在、世界各国の様々な分野の研究者計30名がリエゾンプロフェッサーとして活動しています。

今後、リエゾンオフィスを交流拠点としてリエゾンプロフェッサーと連携し、これまでの交流をさらに深め、留学生の受入・派遣の促進、共同研究の拡大・強化、新規事業の開拓等、発展的に進めていきます。

グローバル化アクションプラン

令和7年2月、「富山大学グローバル化アクションプラン」を策定し、全学を挙げてグローバル化に取り組んでいます。本アクションプランにおいて、基準年(令和5(2023)年又は令和6(2024)年)からの倍増を目指し、本学は令和11(2029)年までに

① 日本人学生の海外派遣数の倍増	令和5(2023)年164名 → 令和11(2029)年328名
② 外国人留学生の受入数の倍増	令和6(2024)年321名 → 令和11(2029)年642名
③ 外国語又はバイリンガルでの授業科目数の倍増	令和5(2023)年265科目 → 令和11(2029)年530科目

を当面の目標として掲げました。

全ての教職員及び学生が、本学のグローバル化を推進するという熱い気持ちをもって、主体的に取り組んでいきます。

グローバル研究者形成拠点(CITIR)

グローバル研究者形成拠点(CITIR)は、本学の国際共同研究の拡充、研究者交流の活性化等を目的に、研究者の採用、海外との交流体制を整備し、若手研究者育成支援及びグローバル研究ネットワーク形成支援に取り組んでいます。令和7年5月時点において、若手研究者採用4名、若手研究者育成支援のためのポストドクトラルリサーチャー・エデュケーション・センター(通称ポストドクセンター)の設置、CITIR Training Laboの設置、グローバルセミナー(マンスリー・ウィークリー)の開催、グローバルサマースクールの開催、海外滞在(サバティカル)助成制度創設、学術交流協定の締結をしています。これらの活動により本学における研究活動の国際化が急速に進展しています。

CITIRは、より強固な支援体制を構築し、グローバル研究ネットワークの拡充と活性化を進めていきます。



ウィークリーセミナー ONIGIRI SEMINAR

CITIR Training Labo

マレーシア・サンウェイ大学との学術交流協定締結

トピック

IITマドラスとの医工連携

令和7年7月24日、本学五福キャンパスにて“Biomedical Engineering Research Workshop on University of Toyama”(医工学研究ワークショップ)を開催しました。本ワークショップは、インド工科大学マドラス校(IITマドラス)から来学されたSathyan教授を迎えて企画された記念イベントです。

当日は、IITマドラスの研究者から自身の研究を紹介いただくとともに、本学で行われている医工学分野での活発な研究活動も紹介され、両大学間の研究交流を促進するとともに、国際共同研究の可能性を広げる貴重な機会となりました。



トピック

Cutting Edge Recycling and Sustainability Technology of Aluminum Alloysを開催

令和7年7月22日・23日、本学とモンクット王工科大学北バンコク校(タイ)の共催による「第2回 軽金属技術国際シンポジウム」を富山大学黒田講堂にて開催しました。“Cutting Edge Recycling and Sustainability Technology of Aluminum Alloys”(アルミニウム合金のリサイクル及びサステナビリティ技術の最先端)をテーマに、米国、インド、タイの研究者を招待しました。国内外の研究者が、アルミニウム合金やリサイクル技術等に関する最新技術や動向を紹介し、軽金属材料の将来的な技術発展について活発な議論が交わされました。

2日目には、富山県内の軽金属関連企業等を訪問するツアーが実施され、富山大学と共同研究を展開している「YKK株式会社」「日本高周波鋼業株式会社」や、アルミニウムリサイクル技術の研究開発拠点として、令和5年10月に本学高岡キャンパスに完成した「軽金属材料共同研究棟」を見学しました。本学が中心となって進めるリサイクルアルミニウムの研究やリサイクルアルミニウムを用いた作品を見学され、参加者から高い関心がありました。

今後も、本学の強みであり、地域の中核産業でもある軽金属分野を基盤に、国内外の研究者等との交流・協働を広げていきます。



齋藤学長の開会挨拶

テーブルディスカッション

軽金属材料共同研究棟での集合写真

学生の国際交流

幅広い教養及び柔軟な思考力並びに国際的な視野を持つ人材育成を目的に、学術交流協定校との交換留学をはじめとして、短期海外語学研修、オンライン英語研修など、学部学生を対象に多様な海外派遣プログラムを企画・実施しています。

トピック

サマースクール

グローバル研究者形成拠点(CITIR)は、令和7年9月24日から29日の間、本学において、国内外の若手研究者及び大学院生を対象としたサマースクール“TOMIDAI GLOBAL SCI FRONTIERS”を初めて開催します。グローバルサウス諸国から37名(マレーシア16名、インド15名、タイ4名、インドネシア2名)、国内から43名(富山大学28名、北陸地区の国立大学13名、他2名)の合計80名が参加します。

このサマースクールは、若手研究者育成支援及びグローバル研究ネットワークの構築を目的としており、各国の参加者を5名1組に分け、グループでの活動を通じた研究ネットワーク構築を図り、本学の研究者を中心に、学際的かつ最先端の研究内容に触れながら、将来を担う若手研究者を育成します。これにより、研究分野における本学のグローバル化が促進することが期待されます。

TOMIDAI GLOBAL SCI FRONTIERSのロゴ▶



TOMIDAI GLOBAL SCI FRONTIERSのフライヤー

トピック

短期海外英語研修

令和3年度から、学部1年次生を対象に希望者60名を選抜し、海外英語研修を実施しています。

令和5年度からは、海外英語研修の実施先をマレーシアのトゥンクアブドゥルラーマン大学に加え、台湾の開南大学、ニュージーランドのオークランド大学へと拡大し、3カ国での実施となりました。研修期間も2週間から4週間と幅を持たせ、学生が自ら設定する研修目標に応じて、研修期間・プログラム内容を選択できる体制を整えました。対面での研修が開始されて3年目となる令和6年度には、60名の募集枠のところ、79名の応募があり、学生の高い関心と意欲がうかがえ、英語学習へのモチベーション向上に大きく寄与する取組となっています。

なお、本研修は富山大学基金を活用し実施しています。



マレーシア・クアラルンプール ペトロナスツインタワー前

ニュージーランド・オークランド大学にて

台湾・開南大学にて

ダイバーシティの推進

ダイバーシティ推進センターは、ジェンダー平等をより一層推し進め、多様性の尊重や男女共同参画の推進とともに、ライフイベント(妊娠・出産・育児・介護等)やワーク・ライフ・バランスに配慮した様々な支援や啓発活動を行っています。

富山大学ダイバーシティ推進センター



click



男女共同参画

女性が活躍できる職場環境の整備や、女性研究者のキャリアアップ支援等の取組を行っています。

また、次世代育成を目的とした、ロールモデルとなる女性研究者の講演や座談会の開催のほか、富山大学女子学生チーム「スマート・ポリネーター」が、理工系分野の魅力や研究の面白さを伝える活動を行っています。

- ・富山大学学長賞「未知に挑む女性研究者賞」
- ・女性研究者限定研究費補助制度 など



ワーク・ライフ・バランス

職員が仕事と家庭生活の両立を図るための支援とし、次の取組を行っています。

〈子育て支援〉

- ・育児との両立支援ハンドブック
- ・ベビーシッター利用割引券の発行

〈研究者の両立支援〉

- ・研究サポーター制度
- ・学会等参加時に係る休日保育利用料及び子ども帯同時の交通費補助制度

〈介護支援〉

- ・介護相談
- ・介護セミナー など



多様な人材の包摂

〈多様な SOGI の尊重〉

多様な性的指向・性自認(SOGI)に関する基本指針を定め、すべての学生や教職員の尊厳が守られ、安心して学修や就職活動、就労及び相談ができるよう、必要な措置や制度を構築することとしています。

令和7年3月には、多様な SOGI の尊重に関するガイドラインを作成し、学生一人ひとりの多様な SOGI が尊重され、学生生活を送る上での支障が少しでも無くなるよう、教職員がより一層理解を深める契機となりました。

〈外国人研究者支援〉

外国人研究者を対象としたメーリングリストを構築し、様々なセミナーやイベント等について発信しています。

意識啓発

社会の様々な多様性に関する理解を深めることを目的として、教職員と学生だけでなく地域の方を参加対象に含めたシンポジウムやイベントを開催しています。



トピック

ダイバーシティ推進ボス宣言

本学は、性別、性的指向と性自認(SOGI)、障がいの有無、年齢、文化、宗教、信条、国籍などの多様性を尊重し、それぞれが自らの能力を発揮し、皆が生き生きと活躍できる教育・研究・職場環境づくりを進めることを宣言しています。

また、学長・ダイバーシティ担当理事・各部局等の長が、「ダイバーシティ推進ボス宣言」として、本学もしくは各部局等において目指す多様性推進と、それに向けた具体的な取組や課題について抱負を述べています。

ダイバーシティ推進ボス宣言



click

トピック

多目的トイレが、「だれでもトイレ」に

本学(附属病院を除く)に設置されている多目的トイレ(オストメイト付きの多目的トイレは除く)の表示を性別や障がいの有無にかかわらず、誰でも必要のある時には使える「だれでもトイレ」表示に変更しました。

本表示の趣旨として、だれでもトイレを使う必要のある方が、より使いやすくなるように、という目的だけでなく、今の社会では「だれでもトイレ」しか使うことができない人もいて、多くの人に考えてもらいたいという思いがあります。そして一人ひとりがより多様性受容の当事者意識を有する中で、個人の人権が守られる社会になってほしいという願いが込められています。



「だれでもトイレ」表示

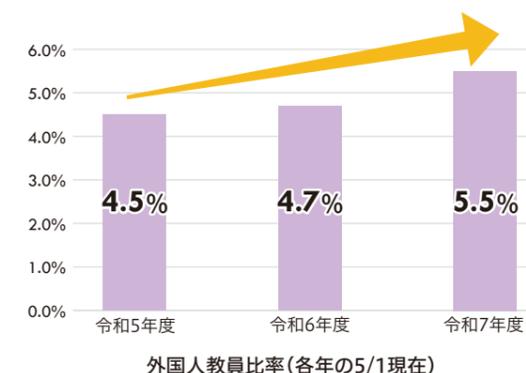
コラム 外国人教員比率の向上

本学では、第4期中期目標において、若手・女性・外国人など研究者の多様性を高めることで、知の集積拠点として、持続的に新たな価値を創出し、発展し続けるための基盤を構築することとしており、本目標を踏まえ、本学の研究力の向上及び学問分野の継承と新しい視点の確保のため、若手教員比率の向上とダイバーシティの推進、外国人教員(研究者)配置による国際ネットワーク強化・知の集積拠点の形成を中期計画に掲げています。

また、本学では国際共同研究、国際研究プロジェクト等の更なる拡充と異分野融合研究への波及・拡大による研究力の底上げを図ることを目的に、令和6年に全学組織として「グローバル研究者形成拠点」を設置し、国際研究交流等のマネジメント機能の整備を推進しています。

これらのことから、国際連携活動等に積極的に寄与できる、若手研究者(女性限定で外国人歓迎)の雇用を支援し、本学の強み・特色のある研究を推進し加速させることを目的として、「若手研究者(女性限定で外国人歓迎)雇用支援プロジェクト」を実施し、3名の女性外国人教員を採用しました。

今後も、このような取組によって教員の多様性を高めていきます。



1. 診療機能の強化

●日本海側初の日本GI(性別不合)学会の手術に関わる認定施設に認定

富山大学附属病院は、令和3年10月1日にジェンダーセンターを設置し、形成再建外科・美容外科教授の佐武利彦センター長のもと、性別不合(GI; Gender Incongruence)の当事者の方が安心して希望される乳房切除術、性別適合手術をはじめとする外科治療や相談を受けられる体制を整備し、診療の実績を重ねてきました。

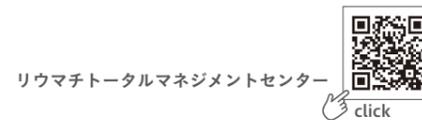
この度、これまでの取組の実績が評価され、**令和6年9月1日付で、本院は日本GI(性別不合)学会の手術に関わる認定施設に認められました。**認定施設においては、特定の条件下で性別不合に関する手術療法が保険適用となり、本院は、全国で9番目、日本海側の医療機関としては初めての認定施設となりました。



●リウマチトータルマネジメントセンターの設置

加藤 将 リウマチトータルマネジメントセンター長(第一内科教授)のもと、**富山県におけるリウマチ性疾患に係る医療の中心拠点**として、令和7年4月に設置しました。

当センターの最大の特色は、**リウマチ・膠原病診療における多職種連携による「トータルマネジメント」**です。これにより、患者さん一人ひとりに合わせた包括的な医療を提供しています。特に、若年患者の移行期医療や、妊娠・出産を希望する女性(WoCBA)への専門ケアに注力し、全身合併症の管理や薬剤副作用へのきめ細やかな対応も行います。また、原因不明の関節痛、健康診断・人間ドックで偶然判明したRF / 抗CCP 抗体陽性など、リウマチ・膠原病のいわゆる「未病」状態に対しても、早期診断・治療に取り組みます。



2. 医療設備の充実

令和6年11月 ～令和7年2月	大学改革推進等補助金を活用し、耳鼻咽喉科内視鏡システム、超音波診断装置、Cアーム型X線TVシステム、陰圧室内視鏡システムを導入し、診療だけでなく高度医療人材の養成にも活用
令和7年3月	血管X線診断・治療システムを導入
令和7年3月	放射線治療システムを導入



Cアーム型X線TVシステム



放射線治療システム



血管X線診断・治療システム

3. 医師の働き方改革の推進

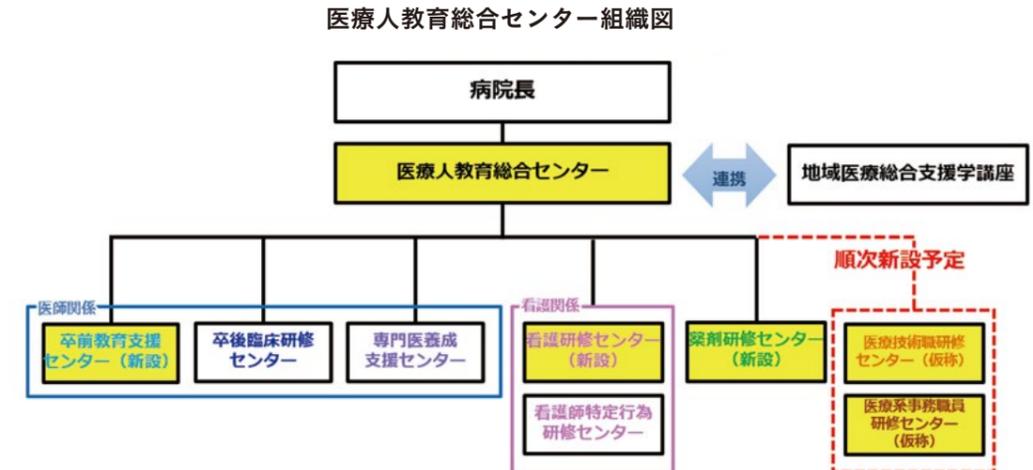
医師の長時間労働を是正し、**医師が健康に働き続けられる環境を整備することで、患者さんに提供する医療の質・安全を確保し、将来にわたって持続可能な医療提供体制を維持するための取組を実施**しています。

令和5年度に、令和15年度末までに段階的に時間外労働時間を減少させる「医師労働時間短縮計画」を作成し、富山県から「特定労務管理対象機関」に指定されました。さらに変形労働制の対象を拡大し、より柔軟な働き方が可能となり、救急医療や地域医療提供体制の維持のための兼業にも対応しやすくなりました。

4. 医療人教育総合センター

医師・看護師・薬剤師をはじめとするすべての医療人に対する、卒前・卒後・生涯教育を通してのプロフェッショナリズムの涵養と全人的な医療人教育を目的として、医療人教育総合センターを令和7年4月に設置しました。

既存の卒後臨床研修センター、専門医養成支援センター、看護師特定行為研修センター、シミュレーションセンター等を集約し統括する役割を持っています。また、卒前教育の一環として臨床実習を含めた多学科連携教育を発展させていく予定です。



5. クラウドファンディング実施中

～難治性すい臓がんに立ち向かう、力ある若い外科医を育てたい～

附属病院では、平成30年に日本初の「膵臓・胆道センター」を設立し、膵がん・胆道がんの最先端治療に取り組むとともに、若手外科医の教育にも注力しています。教育カンファレンスや手術動画の共有、手術シミュレーターによる技術習得支援などを通じて、安全かつ高度な手術技術の継承に努めています。さらに、膵がんに関する20を超える臨床研究を展開しており、新たな治療法や診断法の確立を目指しています。

しかし、こうした取組を維持・発展させるためには、公的資金だけでは不十分であり、機器整備・研究支援・人材育成のための財源確保が急務となっています。

本クラウドファンディングは、膵がん治療の進化と若手外科医の育成を両立させるための挑戦です。技術ある外科医が育ち、治療成績の向上が実現されれば、救える命は確実に増えます。医療の未来を支えるこの挑戦に、広く支援を募りますので、ご協力をお願いします。**(募集期間: 令和7年9月8日(月)9時～令和7年12月5日(金)23時)**



富山大学 膵がん クラウドファンディング



click

その他様々な活動

1. 大阪・関西万博「わたしとみらい、つながるサイエンス展」に出展

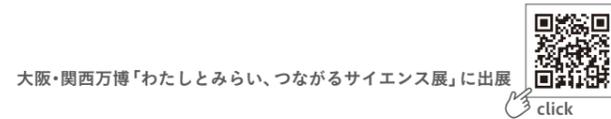
本学は、文部科学省が主催するイベント「わたしとみらい、つながるサイエンス展」に出展しました。会期は令和7年8月14日から19日までの6日間で、大阪・関西万博会場内のEXPOメッセ「WASSE」Northにて開催されました。

本イベントは、国内の大学・研究機関等が、産学官民連携施策による研究成果を発信することで、社会課題を自分事として捉える機会を提供することを目的としています。

本学のブースでは、「未来への贈り物 — アルミからはじまる資源循環社会 —」をテーマに、アルミニウムに関する研究紹介及び作品展示を行いました。これにより、リサイクルに対する意識醸成、資源循環及び循環経済型社会構築に向けた意識の喚起を図りました。

来場者は、リサイクルアルミで制作された五箇山の民謡楽器「ささら」を鳴らし比べて楽しんだほか、若手研究者や学生による「アルミの再資源化」に関する研究の紹介に興味深く耳を傾けていました。

会期中のイベント来場者数は約7万人にのぼり、会場は大いに賑わい、盛況のうちに幕を閉じました。



大阪・関西万博「わたしとみらい、つながるサイエンス展」に出展

2. グッドジョブチーム新設

本学では、障がい者雇用の促進施策の一環として、平成21年度に清掃・環境美化の業務を行う「キャンパスクリーンチーム(五福キャンパス)」を設置して事業を展開してきましたが、この度、障がいを持つ方の活躍の場をさらに拡げるため、「グッドジョブチーム」を令和7年度から新設しました。

「グッドジョブチーム」には、令和7年8月1日現在で室長・支援員を含めて9名が所属しており、本学に関連する情報の収集作業、封入作業、会議室の原状復帰補助など、事務作業や軽作業を行っております。チーム員は、これらの作業を通して業務スキルを身に付け、ゆくゆくは各部署で活躍できるような職員になれるよう励んでいます。

また、令和7年度から、高岡キャンパスにも「キャンパスクリーンチーム」を設置し、高岡市方面の雇用を進めています。

今後もこれらの雇用部署の増員や拡大を含め、さらに障がい者雇用を推進していく予定です。



3. 立山称名滝への夏のスタディ・エクスカーション

国際機構では、外国人留学生同士、あるいは外国人留学生と日本人学生との交流促進を目的として、毎年前期及び後期に、富山の自然や文化を学ぶスタディ・エクスカーションを実施しています。今年度前期のスタディ・エクスカーションは令和7年6月14日に実施し、外国人留学生74名、日本人学生13名、引率教職員3名の合計90名が参加しました。落差日本一を誇る称名滝の雄大な景観と水しぶきを楽しんだ後、立山博物館の展示館とまんだら遊苑を訪れ、立山の自然や信仰にまつわる歴史や文化への理解を深めました。

参加者からは、「訪れた場所がとても興味深く、立山の歴史について学ぶことができた」「新しい友人ができて嬉しかった」「みんなで出かけて楽しかった」といった感想が寄せられ、富山ならではの自然文化を体験しながら交流を深め、充実した一日となりました。



スタディ・エクスカーション



4. 高志の国文学館 ライブラリーコーナーの書籍紹介に本学学生が協力

高志の国文学館ライブラリーコーナー(無料)では、庭を眺めながら本を手にとり、ゆったりと読書することができます。令和7年度富山大学人文学部開講「博物館実習」履修学生(担当教員:人文科学系 長村祥知 准教授)が、高志の国文学館ライブラリーコーナーの書籍紹介の協力をさせて頂きました。

学生達は、富山にゆかりある著者や主題の書籍の《紹介パネル》を制作し、展示作業を行いました。学生が注目した書籍を通して、富山の魅力をお伝え出来れば幸いです。(紹介パネルの掲示期間:令和7年6月28日～令和8年6月下旬)



高志の国文学館 ライブラリーコーナー



5. 持続的な「地産地消」モデルの構築を目指したスマート無人販売所の共同実証実験を開始

ヤンマーホールディングス株式会社(以下、ヤンマーHD)とスマート無人販売所の共同実証実験を、五福キャンパス内において令和7年6月10日～7月31日に実施しました。

富山県では、良質な主食用米の生産を中心に、野菜や果樹などの高収益作物を適切に組み合わせた水田農業の高収益化を推進しています。そこで、野菜や果樹の販路拡大及び生産者と消費者の双方がメリットを享受できる新たな販売チャネルの検証を目的に、本実証実験に取り組みました。

今回は、富山市内の3軒の生産者による共同販売形態のスマート無人販売所を設置しました。ここでは、ヤンマーHDが開発した、売り場をモバイル端末で確認できるカメラおよびマップアプリを活用し、生産者と消費者の利便性の検証を行います。

野菜の価格高騰が続く中、地元の新鮮な野菜を手ごろな価格で提供することで、学生生活の支援にもつながることから、本学内での実施となりました。

ヤンマーHDの食料生産を支えるソリューション提案力や技術力と、本学の各種団体と連携した地域振興に関する知見を活用し、持続的な「地産地消」を実現する農業モデルの構築を目指します。



スマート無人販売所の共同実証実験



6. 学生支援事業「100円カレー」の実施

令和7年6月10日より、コメの価格など物価の高騰の影響を受けている学生に対して支援を行うため、富山大学の学生支援事業として、本学のネーミングライツ経費を活用し、「100円カレーの提供」を実施しました。



学生支援事業「100円カレー」



7. 「Giving Campaign 2024」に本学が初参加

Giving Campaign とは、日本最大級の「学生による」オンラインチャリティイベントで、富山大学は令和6年度に初参加しました。結果は以下のとおりです。

応援数:6,376人、寄附件数120件、参加団体数42団体
個人寄附総額843,000円、企業賞獲得金額500,000円



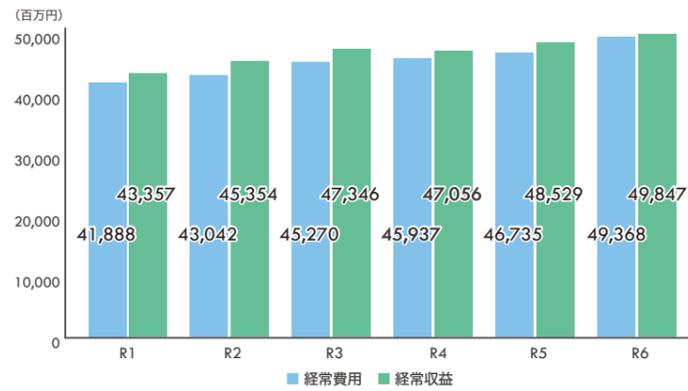
「Giving Campaign 2024」



経常費用と経常収益

事業規模の拡大に伴い、経常費用、経常収益ともに増加しています。

運営費交付金の交付額は近年概ね横ばいで推移しており、教育・研究・診療・社会貢献活動等を持続的にを行い、継続的に発展させるためにも、自己収入や外部資金の獲得に努めています。



運営費交付金の受入額

国立大学法人は、安定的・持続的に教育研究活動を行うために、国から運営費交付金が交付されています。

運営費交付金の確保にあたっては、

- ①大学が自ら立てた目標の達成状況による配分
- ②他大学も含めた客観的な共通指標による配分

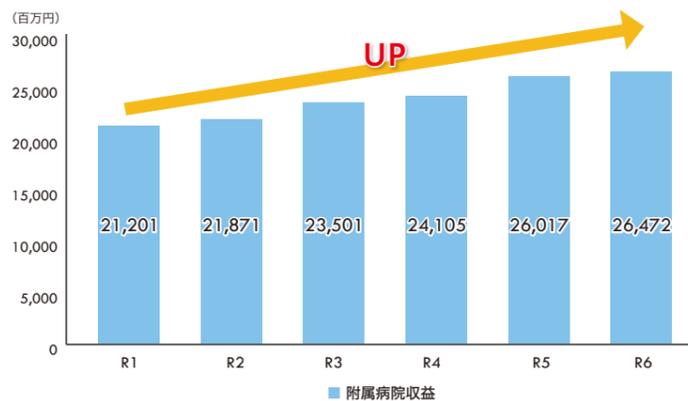
が行われ、競争的環境にあることから、教育研究活動に積極的に取り組み、確実な成果を挙げていくことが求められています。



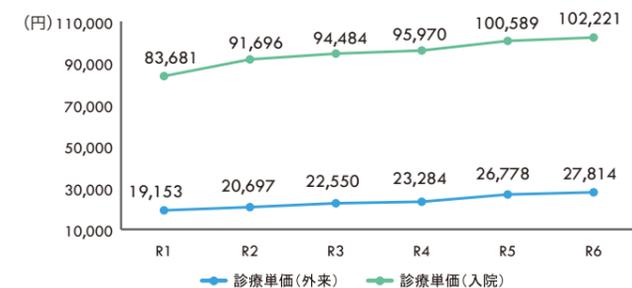
附属病院収益

国立大学附属病院は、高度な医療の提供、新しい医療技術の研究・開発及び優れた医療人材の養成・輩出を担う地域の中核的な医療機関として重要な役割を果たしています。

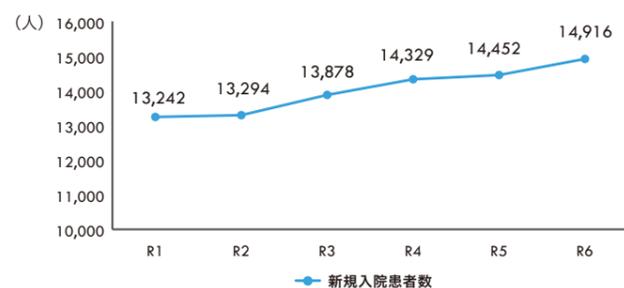
物価や光熱費の高騰等による厳しい病院経営が続く中、各大学が経営基盤の安定化に努めています。



診療単価の推移

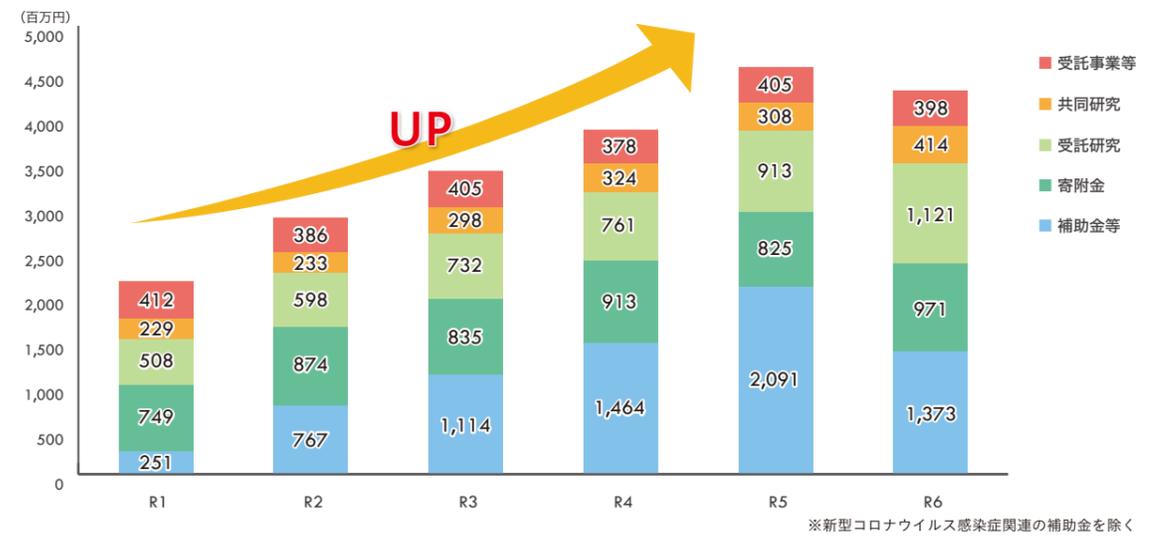
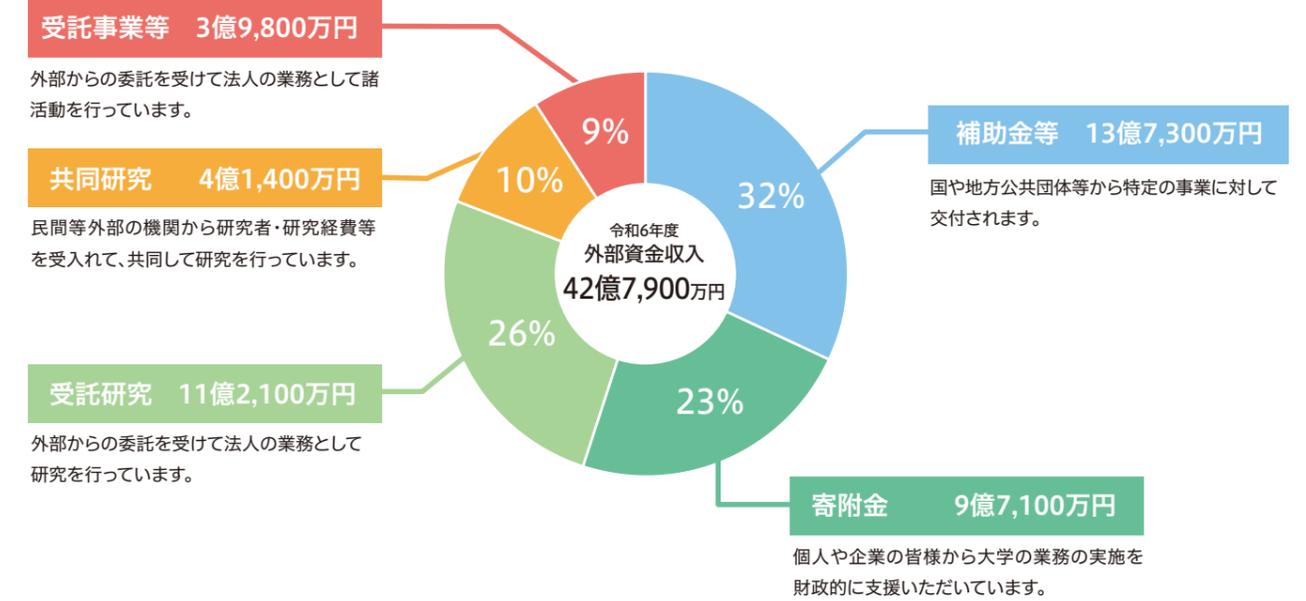


新規入院患者数



外部資金の受入額

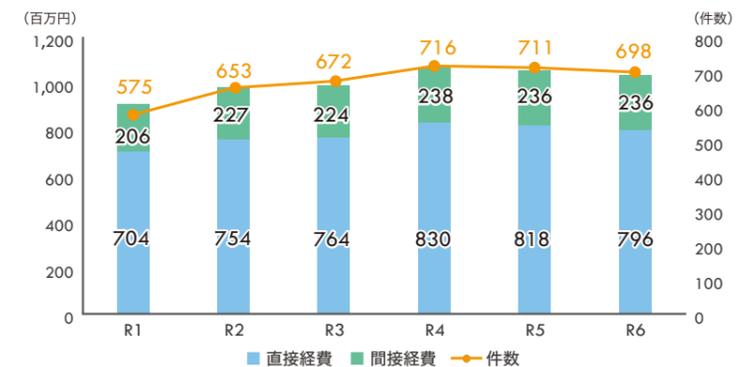
国立大学法人では、安定した教育研究活動を維持していくために、外部資金獲得の重要性が増しており、各大学が外部資金獲得に努めています。また、外部資金に伴う間接経費は、教育研究活動の環境改善等の基盤的な経費として、重要な財源となっています。



科学研究費補助金の受入額

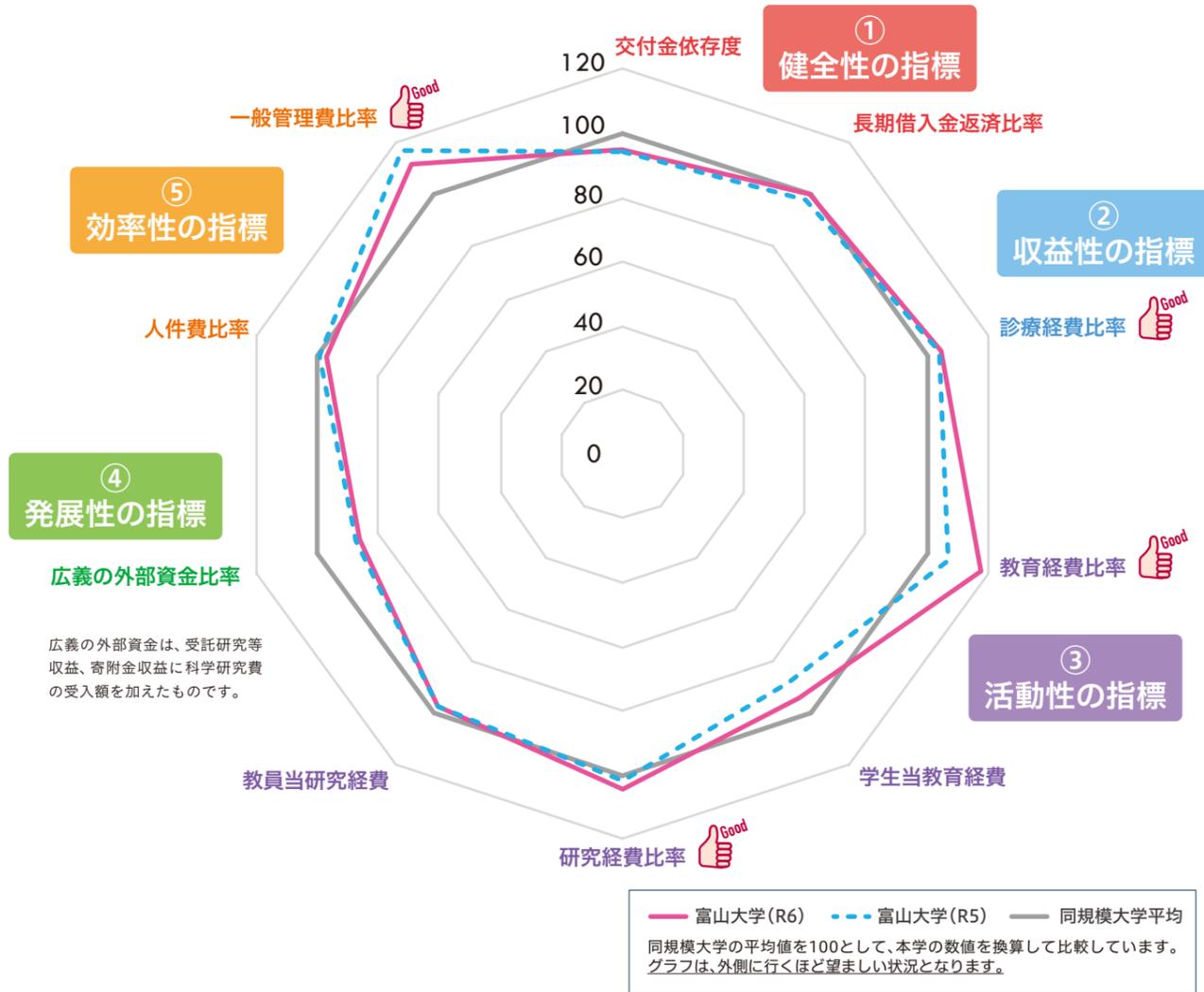
外部資金とは別に、国から研究者個人等に対して支給される補助金として、科学研究費補助金があります。大学に交付されるものではありませんが、大学の研究基盤における大きな財源となっています。

また、間接経費は、科学研究費補助金を獲得した研究者の研究環境の改善や大学全体の機能向上に活用しています。



財務指標による比較

財務指標とは、財務諸表の計数を用いて計算、数値化したもので、国立大学法人の財務状態や運営状況を総合的に把握するための指標です。同規模大学^(※注)の平均値を100として、本学の数値を換算して比較しています。グラフは外側に行くほど望ましい状況となります。



広義の外部資金は、受託研究等収益、寄附金収益に科学研究費の受入額を加えたものです。

(※注)同規模大学とは

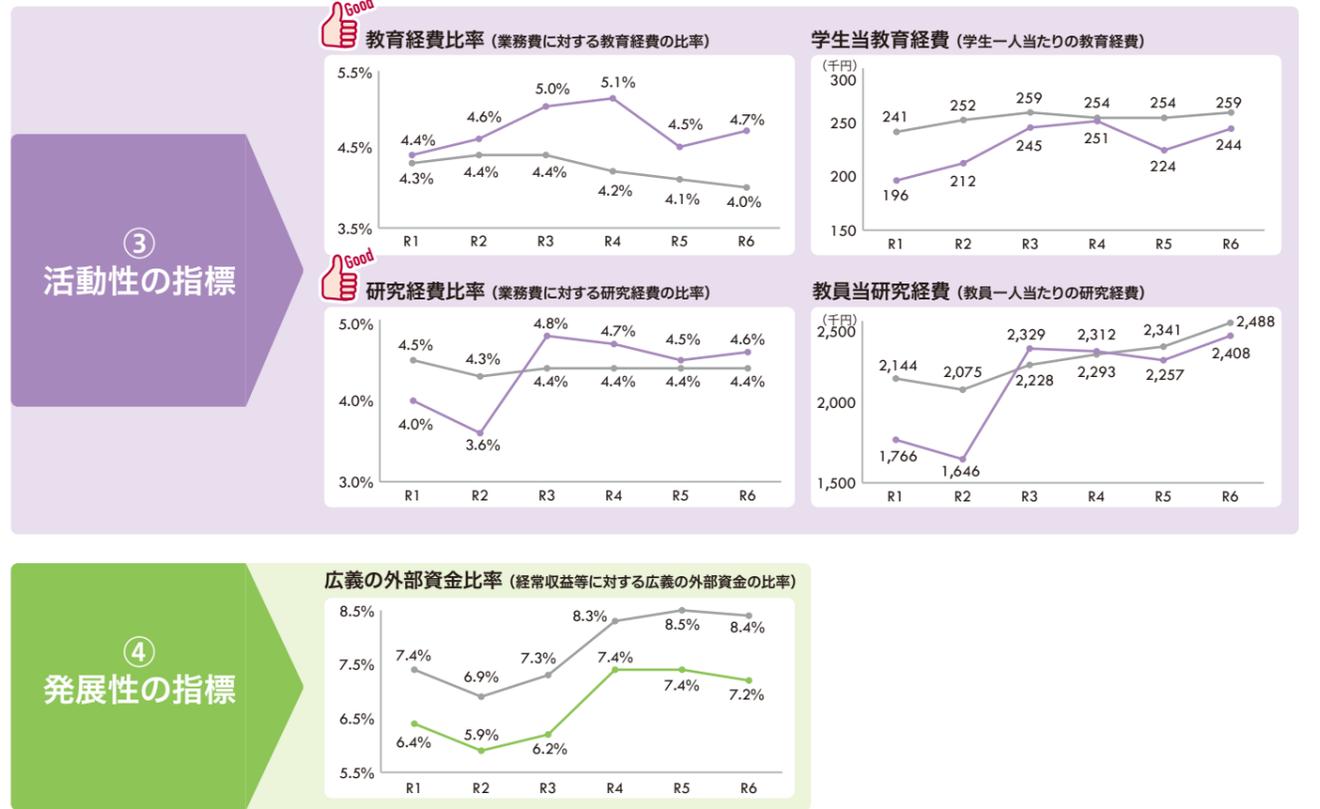
文部科学省の定める国立大学法人の分類の中で、「医科系及びその他の学部で構成され、学生収容定員が1万人未満、学部数が10学部未満の国立大学法人」であり、以下の24大学が該当します。

弘前大学、秋田大学、山形大学、群馬大学、富山大学、金沢大学、福井大学、山梨大学、信州大学、三重大学、鳥取大学、島根大学、山口大学、徳島大学、香川大学、愛媛大学、高知大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学

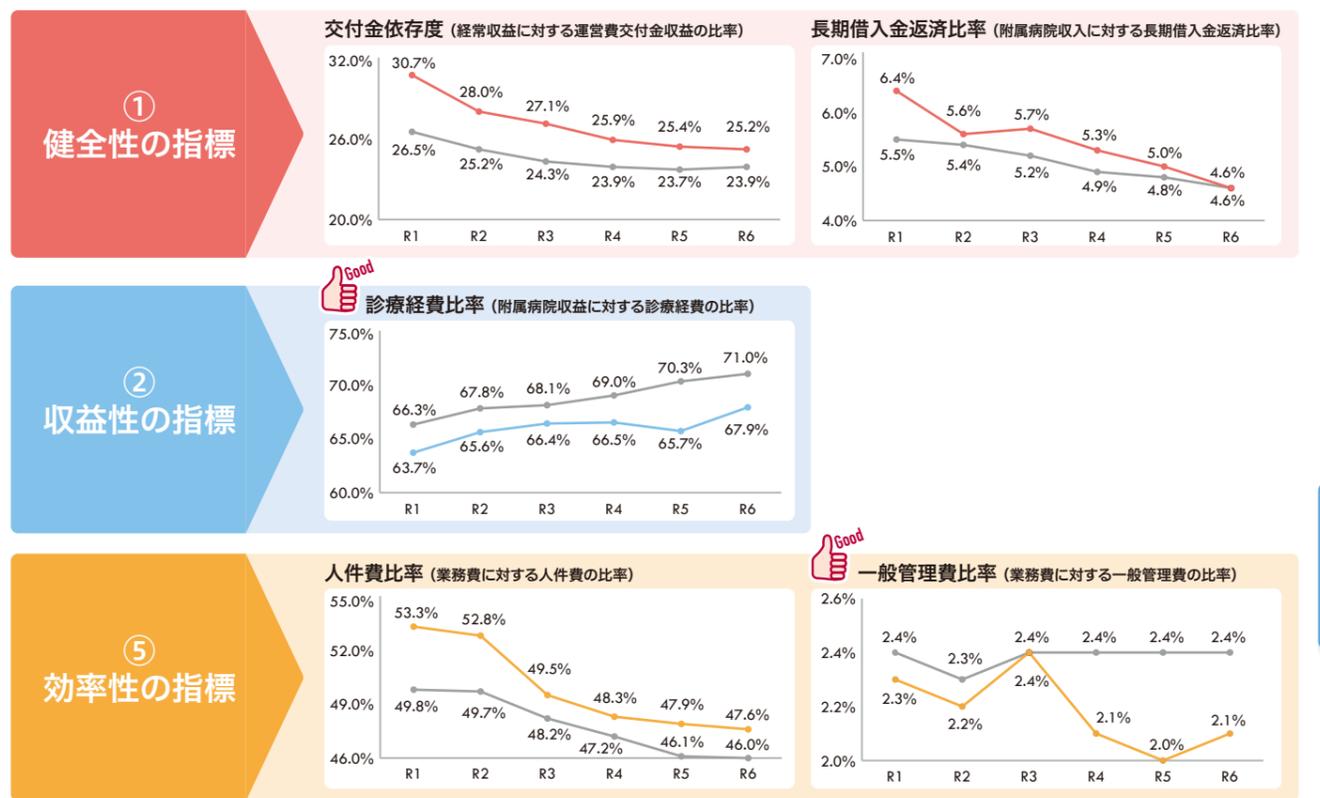
富山大学の傾向

- ・教育経費比率は同規模大学の平均より高い傾向にありますが、学生当教育経費は平均より低く、さらなる奨学制度や学生サービスの充実等を目指して参ります。
- ・広義の外部資金比率は同規模大学の平均より低く、引き続き、外部資金の獲得増に努め、財務健全化を図っていきます。
- ・診療経費比率及び一般管理費比率は同規模大学の平均より低い傾向にあります。これは、医療材料等の価格交渉や経費節減の取組によるものであり、今後も継続して、なお一層の効率的な管理運営に努めて参ります。

数値が高い方が望ましい財務指標の推移



数値が低い方が望ましい財務指標の推移



財務トピック

多様な財源の獲得に向けて

● ネーミングライツ事業の取組

令和6年度に、本学が所有する施設等への命名権を契約により事業者が付与し、事業者から得る対価を活用して教育研究環境の向上を図ることを目的に、「ネーミングライツ事業」を開始しました。

本学との契約により、事業者には本学の施設等に、事業者の名称、商標名、ロゴ・シンボルマーク又は愛称等を決定する命名権を付与し、事業者は、学内外での認知度を高めることが期待できます。

令和7年4月には、新たに3社が「ネーミングライツパートナー」になりました。

引き続き、「ネーミングライツパートナー」を募集しています。

ネーミングライツパートナー一覧

令和6年4月から	
ネーミングライツパートナー	施設名
金森産業株式会社	金森産業ホール
株式会社スギノマシン	スギノマシンラウンジ
株式会社iソフト	isoft #NO LIMITS ゾーン
令和7年4月から	
ネーミングライツパートナー	施設名
株式会社日本オープンシステムズ	JOPS 食堂
富山住友電工株式会社	富山住友電工 Café
ダイト株式会社	Daito Inspiration Room

(令和7年9月現在)

※富山大学ネーミングライツ事業について



click



JOPS 食堂



富山住友電工 Café



Daito Inspiration Room

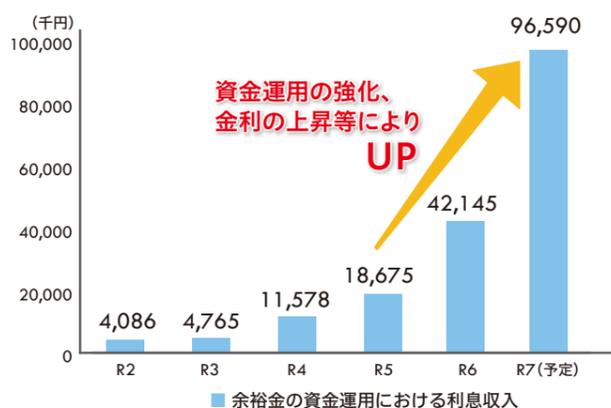
● 「業務上の余裕金の運用にかかる認定基準」第1の取得

令和6年12月に、「業務上の余裕金の運用にかかる文部科学大臣の認定基準」第1の認定を受けたことにより、より収益性の高い金融商品の購入が可能となり、幅広く余裕金の資金運用ができるようになりました。

また、適切な資金運用を行うため、新たに資金運用管理委員会を組織しました。

委員会において、金融商品のリスクと利益を慎重に判断して資金運用計画等を承認することにより、資金の安全かつ効果的な運用を行っています。

今後も積極的かつ安全に資金運用を行い、将来の教育研究の発展に資することを目的に、大学の中長期的な財政基盤の強化を図っていきます。



本学の施設利用について

本学の行事、授業及び課外活動に支障がない限り、公共的な行事及び一般市民の方々の営利を目的としない行事などに本学の講義室、体育館や黒田講堂等を利用することができます。

※本学の施設利用について



click



黒田講堂

財務諸表

● 貸借対照表の概要

貸借対照表は、財政状態を明らかにするため、期末(令和7年3月31日)におけるすべての資産、負債及び純資産の残高を表すものです。

(百万円)					(百万円)				
科目	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比	科目	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
【資産の部】	85,931	85,719	87,551	1,831	【負債の部】	31,170	31,436	33,385	1,948
I 固定資産	69,350	68,171	66,635	▲1,536	I 固定負債	20,185	19,881	19,372	▲508
1 有形固定資産	64,391	62,743	61,636	▲1,107	長期繰延補助金等	1,373	2,197	2,099	▲98
土地	22,591	22,591	22,591	-	長期リース債務	2,689	2,473	1,965	▲507
建物	28,200	26,252	24,786	▲1,465	債務負担金	23	8	2	▲6
建物	63,262	64,479	65,274	794	長期借入金	14,532	13,620	13,699	78
減価償却累計額等	▲35,061	▲38,227	▲40,487	▲2,260	退職給付引当金	1,307	1,350	1,405	54
構築物	1,354	1,221	1,400	178	その他の固定負債	260	230	200	▲29
構築物	4,281	4,320	4,655	334	II 流動負債	10,985	11,555	14,012	2,457
減価償却累計額等	▲2,926	▲3,099	▲3,255	▲155	運営費交付金債務	591	532	578	46
工具器具備品	5,700	5,980	6,170	190	寄附金債務	2,912	2,856	3,049	192
工具器具備品	29,098	30,813	31,789	975	短期リース債務	844	851	818	▲32
減価償却累計額	▲23,397	▲24,833	▲25,619	▲785	一年以内返済予定	36	15	6	▲8
図書	6,098	6,086	5,980	▲106	債務負担金				
その他の有形固定資産	444	611	707	95	一年以内返済予定				
2 無形固定資産	2,043	1,517	992	▲525	長期借入金	1,270	1,215	1,289	74
3 投資その他の資産	2,915	3,910	4,006	95	未払金	4,377	4,730	6,730	1,999
II 流動資産	16,580	17,548	20,916	3,368	その他の流動負債	951	1,353	1,539	185
現金及び預金	10,718	11,640	15,020	3,379	【純資産の部】	54,760	54,283	54,166	▲116
未収附属病院収入	4,552	4,584	4,618	34	I 資本金	39,953	39,953	39,953	-
その他の未収入金	776	802	901	99	II 資本剰余金	▲2,667	▲4,307	▲4,454	▲147
その他の流動資産	532	520	375	▲144	III 利益剰余金	17,473	18,636	18,666	30
資産合計	85,931	85,719	87,551	1,831	負債・純資産合計	85,931	85,719	87,551	1,831

令和5年度と比較した令和6年度の主な増減要因

(※1) 建物	工学部機械系実験研究棟や医学解剖棟の改修等による増の一方、それを上回る既存建物の減価償却により減少しています。
(※2) 現金及び預金	建物や医療用機器等の未払金の増、附属病院収入や寄附金・受託研究等収入の増等により増加しています。

● 損益計算書の概要

損益計算書は、令和6年度に費用、収益がどれだけ発生したかを表し、運営状況を明らかにするものです。費用がいくらかかったか、収益がいくらあったか、その結果、利益または損失がどれだけ発生したかが分かります。

(百万円)					(百万円)				
科目	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比	科目	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
経常費用	45,937	46,735	49,368	2,632	経常収益	47,056	48,529	49,847	1,318
業務費	44,909	45,743	48,275	2,532	運営費交付金収益	12,187	12,340	12,550	209
教育経費	2,297	2,067	2,262	194	学生納付金収益	5,588	5,610	5,686	76
研究経費	2,101	2,079	2,241	162	附属病院収益	24,105	26,017	26,472	455
診療経費	16,032	17,099	17,964	865	受託研究等収益	1,521	1,612	1,757	144
教育研究支援経費	1,235	1,058	1,174	115	施設費収益	377	123	487	363
受託研究費等	1,529	1,548	1,677	128	補助金等収益	1,782	1,295	1,464	168
人件費	21,712	21,888	22,954	1,065	寄附金収益	963	981	875	▲105
一般管理費	957	928	1,029	100	その他の収益	531	547	553	6
財務費用	65	63	63	0	臨時利益	10,230	14	4	▲9
雑損	4	0	0	0	固定資産売却益	0	7	2	▲5
臨時損失	47	174	27	▲147	その他	10,230	6	1	▲4
固定資産除売却損	4	8	10	2	収益合計	57,286	48,543	49,852	1,308
その他	42	166	16	▲149	当期純利益(収益合計-費用合計)	11,302	1,633	456	▲1,176
費用合計	45,984	46,910	49,395	2,485	目的積立金取崩額	421	106	226	119
					当期総利益	11,724	1,740	682	▲1,057

令和5年度と比較した令和6年度の主な増減要因

(※3) 診療経費	医薬品費、診療材料費、委託費の増等により増加しています。
(※4) 人件費	給与改定による増、退職手当の増等により増加しています。

※令和6年度の詳細な財務諸表

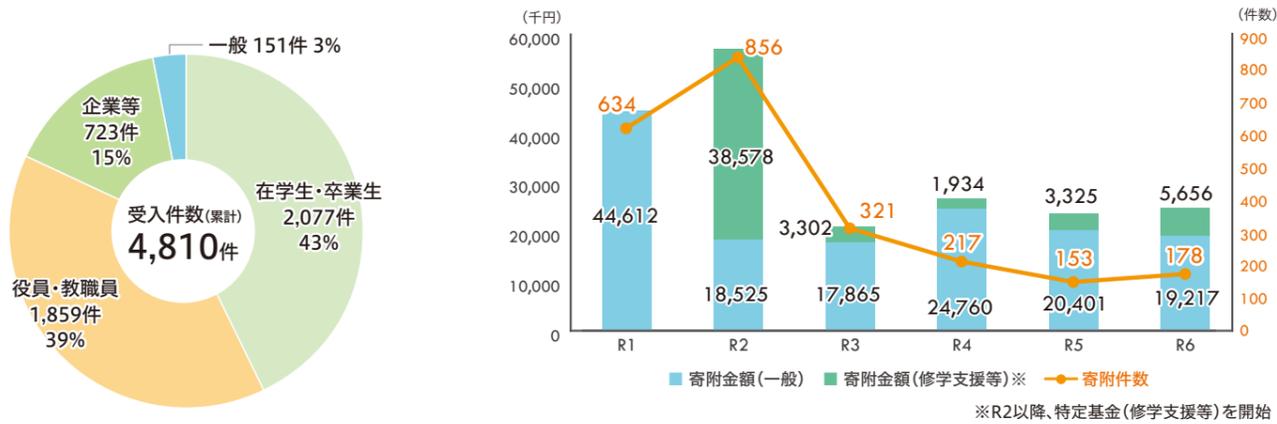


click

富山大学基金の概要と受入状況

富山大学基金は、学生支援や教育・研究支援、国際交流支援や地域・社会貢献支援等の様々な事業の一層の発展を図るため、平成24年に設立されました。

この間に学内の教職員はもとより、企業法人の皆様方、名誉教授の先生方、事務職員のOB・OG及び同窓会の皆様方のご理解とご協力により、令和6年度末の寄附件数は4,810件、基金寄附総額は3億8,487万円となりました。



令和6年度支援事業

ご寄附いただいた基金により、令和6年度において以下の支援事業を実施しました。

学部1年次学生短期海外派遣プログラム支援事業 / 海外留学支援事業 / 夏季オンライン英語研修プログラム支援事業

本学では、教育における戦略の1つとしてグローバル人材の養成を掲げており、意欲ある学生が新しいチャレンジに自ら一歩を踏み出せる環境を整備しています。

詳細は国際交流ページ(P24)を参照してください。



成績優秀者表彰事業

各学部・大学院生の成績優秀者を表彰する事業です。令和6年度は36名の学生に表彰楯と記念品を授与しました。



学生に対する災害対応支援金給付事業

令和6年1月1日に発生した、能登半島地震や、9月21日～23日に発生した能登半島豪雨による学生や学資負担者が被災した学生に対し、緊急的に経済的な支援を必要とする対象者に支援金の給付を行いました。



令和7年度に予定している支援事業

学生の新たな挑戦、英語力や学習意欲向上への支援

- **学部1年次対象短期海外英語研修支援事業**
学部1年次学生で海外留学への意欲がある学生に短期海外派遣プログラムへの参加費を支援します。
- **海外留学・語学研修等支援事業**
海外留学を計画する学生で、学部長等の推薦のあった学生から選出を行い、選出された学生に長期間の海外留学への費用を支援します。
- **夏季オンライン英語研修支援事業**
オンラインでの英語研修を希望する意欲ある学生に参加費を支援します。
- **海外ダブル・ディグリー・プログラム派遣支援事業**
ダブル・ディグリー・プログラムにより海外に派遣する学生に渡航費を支援します。
- **学生表彰規則による成績優秀者表彰事業**
各学部及び大学院生の成績優秀者を表彰のうえ、記念品を贈呈します。

職員の国際交流推進に資する能力向上への支援

- **グローバルSDにおける海外派遣支援事業**
外国人留学生の受入れを促進させるため、本学のPRの場として、海外で実施される「日本留学フェア」への派遣と協定校への訪問を支援します。



芸術文化学部基金を設立しました。

富山大学芸術文化学部の教育・研究における環境の整備や内容の充実による高度人材育成を図ることを目的とし、「富山大学芸術文化学部基金」を設立しました。



寄附について

税制上の優遇措置

2,000円以上のご寄附は「寄附金控除」の対象となり、個人では「所得控除」、法人では「全額損金算入」が適用されます。なお、修学支援基金又は研究等支援基金への個人からのご寄附については、「所得控除」に加え「税額控除」も適用になります。確定申告の際に、控除額が有利な方をお選び下さい。

一定金額以上ご寄附いただいた方々への謝意

ご寄附が一定金額以上に達した方へ金額に応じて、「富山大学オリジナル扇子」又は錫製品を贈呈しております。



リサイクル募金について

読み終えた本・DVD・ブランド品等を皆様からご提供いただき、その査定換金額が本学に寄附される富山大学リサイクル募金の取組を行っております。寄附金は学生支援や教育研究支援事業に役立てられます。



富山大学基金への寄附の申し込み方法

富山大学基金には、以下の8つの種類がございます。

- 一般基金
- 修学支援基金
- 研究等支援基金
- 課外活動支援基金
- 経済学部基金
- 医学部基金
- 工学部基金
- 芸術文化学部基金

富山大学基金へのご寄附は、以下の3つの方法があります。詳細は、富山大学基金のホームページでご覧いただくか、下記へお問い合わせください。

- インターネットからのお申込み**
クレジットカード決済やコンビニ決済等でご寄附いただけます
- 金融機関からのお振込み**
銀行、ゆうちょ銀行からのお振込みでご寄附いただけます
- 大学窓口でのお申込み**
大学窓口で現金でご寄附いただけます

【お問い合わせ先】総務部総務課広報・基金室 Tel:076-445-6178 E-mail:kikin@adm.u-toyama.ac.jp



富山大学基金HP
click

広報刊行物等のご紹介

富山大学を更に詳しくお知りになりたい方は、ホームページ、広報刊行物等も併せてご覧ください。



学長メッセージ「Saito Vision2025」
<https://www.u-toyama.ac.jp/outline/pr-message/president/vision2025/>



国立大学法人ガバナンス・コード
<https://www.u-toyama.ac.jp/outline/information/code/>



大学概要
<https://www.u-toyama.ac.jp/outline/pr/publication/about/>



環境報告書
<http://www.erc.u-toyama.ac.jp/environment/index.html#report>



大学案内
<https://www.u-toyama.ac.jp/admission/undergraduate-exam/leaflet/>



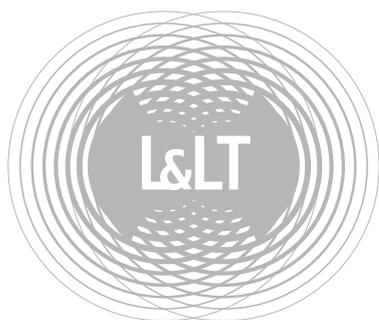
学部案内
<https://www.u-toyama.ac.jp/outline/pr/publication/ug-guide/>



まなばれ
<https://www.u-toyama.ac.jp/outline/pr/publication/manabare/>



News Letter
<https://www.u-toyama.ac.jp/outline/pr/publication/news-letter/>



Live & Learn in Toyama.

富山で学ぶ。富山大学で学ぶ。
表紙写真：「あさひ舟川『春の四重奏』」
撮影：イナガキヤスト



富山大学ウェブサイト：
<https://www.u-toyama.ac.jp>



国立大学法人 富山大学 統合報告書 2025

編集：富山大学 財務施設部財務企画課，総務部企画評価課，総務課広報・基金室
〒930-8555 富山県富山市五福3190 Tel. 076-445-6699 (財務施設部財務企画課)
E-mail: zaikikaku@adm.u-toyama.ac.jp

※掲載情報は2025年4月現在のものです。最新情報はWebサイトにてご確認ください。
本学の許可なく、掲載の記事や写真等を複製・転写することを禁じます。



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。